

平成16年度 市内遺跡発掘調査に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

Nobeokajyonai

延岡城内遺跡(第10次)

Nakahata

仲畑遺跡

Akagi

赤木遺跡(第10次)

Nobeokajyonai

延岡城内遺跡(第11次)

Kinoshita

木ノ下遺跡(第2次)

Kamimuta

上無田遺跡(第4次)

Otake

大武遺跡

Kamatatara

上多々良遺跡(第2次)

Nobeokajyounai

延岡城内遺跡(第12次)

Nishishinayokoana

西階横穴

2005.3

延岡市教育委員会

序 文

延岡市は、宮崎県の北部に位置する人口約12万4千人の中核都市として、豊かな自然、温暖な気候の中で個性ある風土や文化を育んできました。

古くは城下町として栄え、近年においても県北地域の教育文化・産業経済等の中心としての役割を担っており、特に工業は、県内随一、東九州地域においても有数の工業集積地として発展してきました。

現在においても、地域社会における本市の役割と責任はますます重要なとなってきていますが、その一方で、産業の停滞・人口の減少・高齢化等による都市活力の低下が懸念される状況にあります。

このような中、平成17年2月に北方町、北浦町と1市2町の合併に向けて、県北地域も大きく動き出しています。また、国道10号延岡道路の着手や国道218号北方延岡道路の着手など、高速道路網整備の事業着手や、これらに伴い、市内でもインターへのアクセス道路の整備が進んでおります。岡富・古川地区の区画整理事業も都市計画決定が行われ、住環境の整備等も同時に進められています。また、宮崎県北地方拠点都市地域の指定、さらに念願であった4年制大学「九州保健福祉大学」の立地や新しい学部の創設は、広域的な視点に立った交流と連携による新たなまちづくりを展開するための大きな契機となっています。

市教育委員会では、市内での民間・公共開発事業等の計画に際して、埋蔵文化財の確認調査等を実施しており、本書はその報告書であります。

本書が埋蔵文化財への理解を深める一助となることを願うとともに、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査にあたり県教育委員会文化課をはじめ、地権者の方々にご協力得ました。記して感謝いたします。

平成17年3月31日

延岡市教育委員会

教育長 牧野哲久

例 言

- 本書は延岡市教育委員会が国・県補助を受けて、平成16年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
- 本年度は仲畑遺跡、赤木遺跡(第10次)、延岡城内遺跡(第11次)、木ノ下遺跡(第2次)、上無田遺跡(第4次)、大武遺跡、上多々良遺跡(第2次)、延岡城内遺跡(第12次)、西階横穴の9箇所の調査を行った。
- 昨年末に調査した延岡城内遺跡(第10次)を巻頭に報告し、西階横穴を巻末に報告する。
- 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、尾方農一、高浦哲、敷石サヨ子、藤本千鳥、山本敬子が行った。
- 現場での写真撮影は各調査担当者が、遺物の写真撮影は尾方、高浦が行った。
- 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
- 出土遺物は内藤記念館で保管しており、今後、展示公開の予定である。



本 文 目 次

第1章 はじめに

1. はじめに 1

第2章 調査の記録

1. 延岡城内遺跡(第10次) 3 ~ 4

2. 仲畑遺跡 5 ~ 6

3. 赤木遺跡(第10次) 7 ~ 10

4. 延岡城内遺跡(第11次) 11 ~ 14

5. 木ノ下遺跡(第2次) 15

2. 調査の組織 1

6. 上無田遺跡(第4次) 16

7. 大武遺跡 17

8. 上多々良遺跡(第2次) 18 ~ 21

9. 延岡城内遺跡(第12次) 22 ~ 23

10. 西階横穴 24 ~ 36

挿 図 目 次

- Fig. 1 平成16年度市内遺跡発掘調査位置図 2
 Fig. 2 延岡城内遺跡(第10次)位置図 3
 Fig. 3 延岡城内遺跡(第10次)調査区配置図 3
 Fig. 4 延岡城内遺跡(第10次)トレント3土層断面図 3
 Fig. 5 延岡城内遺跡(第10次)出土遺物実測図 4
 Fig. 6 仲畑遺跡位置図 5
 Fig. 7 仲畑遺跡調査区配置図 5
 Fig. 8 仲畑遺跡トレント2・3土層断面図 6
 Fig. 9 赤木遺跡(第10次)位置図 7
 Fig. 10 赤木遺跡(第10次)調査区配置図 7
 Fig. 11 赤木遺跡(第10次)トレント3土層断面図 7
 Fig. 12 赤木遺跡(第10次)出土遺物実測図 8
 Fig. 13 赤木遺跡(第10次)出土遺物実測図 9
 Fig. 14 延岡城内遺跡(第11次)位置図 11
 Fig. 15 延岡城内遺跡(第11次)調査区配置図 11
 Fig. 16 延岡城内遺跡(第11次)トレント3検出遺構分布図 12
 Fig. 17 延岡城内遺跡(第11次)トレント4検出遺構分布図 13
 Fig. 18 延岡城内遺跡(第11次)トレント5検出遺構分布図 13
 Fig. 19 延岡城内遺跡(第11次)出土遺物実測図 14
 Fig. 20 木ノ下遺跡(第2次)位置図 15

- Fig. 21 木ノ下遺跡(第2次)調査区配置図 15
 Fig. 22 上無田遺跡(第4次)位置図 16
 Fig. 23 上無田遺跡(第4次)調査区配置図 16
 Fig. 24 大武遺跡位置図 17
 Fig. 25 大武遺跡調査区配置図 17
 Fig. 26 上多々良遺跡(第2次)位置図 18
 Fig. 27 上多々良遺跡(第2次)調査区配置図 18
 Fig. 28 上多々良遺跡(第2次)1区土層断面図 19
 Fig. 29 上多々良遺跡(第2次)2区・3区土層断面図 20
 Fig. 30 上多々良遺跡(第2次)出土遺物実測図 21
 Fig. 31 延岡城内遺跡(第12次)位置図 22
 Fig. 32 延岡城内遺跡(第12次)調査区配置図 22
 Fig. 33 延岡城内遺跡(第12次)出土遺物実測図 23
 Fig. 34 西階横穴位置図 25
 Fig. 35 西階横穴分布図 26
 Fig. 36 西階横穴調査区配置図 28
 Fig. 37 西階横穴実測図 29
 Fig. 38 西階横穴出土遺物状況図 31
 Fig. 39 西階横穴出土遺物実測図 32

写 真 図 版 目 次

- PL. 1 延岡城内遺跡(第10次)出土遺物 4
 PL. 2 仲畑遺跡調査風景 6
 PL. 3 赤木遺跡(第10次)出土遺物 10
 PL. 4 延岡城内遺跡(第11次)調査風景 11
 PL. 5 延岡城内遺跡(第11次)基礎確認検出状況 13
 PL. 6 延岡城内遺跡(第11次)基礎跡検出状況 13
 PL. 7 木ノ下遺跡(第2次)調査風景 15
 PL. 8 上無田遺跡(第4次)調査風景 16

- PL. 9 大武遺跡調査風景 17
 PL. 10 延岡城内遺跡(第12次)トレント1土層断面 22
 PL. 11 延岡城内遺跡(第12次)井戸跡検出状況 23
 PL. 12 西階横穴調査前 36
 PL. 13 西階横穴閉塞状況 36
 PL. 14 西階横穴開口状況 36
 PL. 15 西階横穴出土遺物 36

表 目 次

- 表 1 平成16年度市内遺跡発掘調査一覧表 2
 表 2 西階横穴出土土類観察表 33

- 表 3 西階横穴出土玉類観察表 34
 表 4 西階横穴出土玉類観察表 35

第1章 はじめに

1. はじめに

延岡市は、日向灘に面した宮崎県の北部に位置し、東経131度40分03秒、北緯32度34分43秒にあり、東西に27.6km、南北に26.4kmの市域を占め、面積は283.82km²である。人口は12万4千人を数え、宮崎県北部の中核都市であり、また県下最大の工業集積地である。

これまで工業都市として認識されてきた本市であるが、「内藤家伝来の能面展」や「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」等を開催し、全国に文化都市「のべおか」を情報発信している。

現在の延岡市は、平成17年2月に北方町・北浦町との1市2町の合併に向けて大きく動き出している。念願だった4年生大学も「九州保健福祉大学」に薬学部が新設されるなど産学官の連携も多く、定着しつつある。「国道10号延岡道路」の着手、「国道218号北方延岡道路」など、これまでの大きな課題であった道路問題も大きく前進している。

本年は大規模な公共・民間開発はなかったものの、小規模な開発事業が行われ、それら開発事業と埋蔵文化財保護との調整資料を得るために9箇所で確認・試掘調査を実施した。

今年度の報告書は、昨年度に調査し次年度報告とした、延岡城内遺跡(第10次)を巻頭に、不時発見で確認した西階横穴の調査報告を巻末にて行う。

2. 調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会	
	教 育 長	牧 野 哲 久
	教 育 部 長	杉 本 隆 晴
	文 化 課 長	波 遼 博 吾
	主幹兼文化財係長	九 鬼 勉
	文 化 振 興 係 長	黒 木 育 朗
庶務担当	文化課主任主事	松 岡 直 子
調査担当	文化課主任主事	尾 方 農 一
	文化課主任主事	高 浦 哲
発掘作業員	安藤登美子、甲斐カツキ、甲斐正子、甲斐理司、甲斐一千代、甲斐如高 稼農末治、河野尚子、酒井清子、林田裕子、松崎辰磨	
資料整理	敷石サヨ子、藤本千鳥、山本敬子	

発掘調査の事前協議及び調査過程において便宜を図って頂いた、土地所有者及び関係者の勝日中商事、株加賀城建設、株児玉建設、佐藤清亮氏、延岡市区画整理課・都市計画課の皆さまに記して感謝いたします。

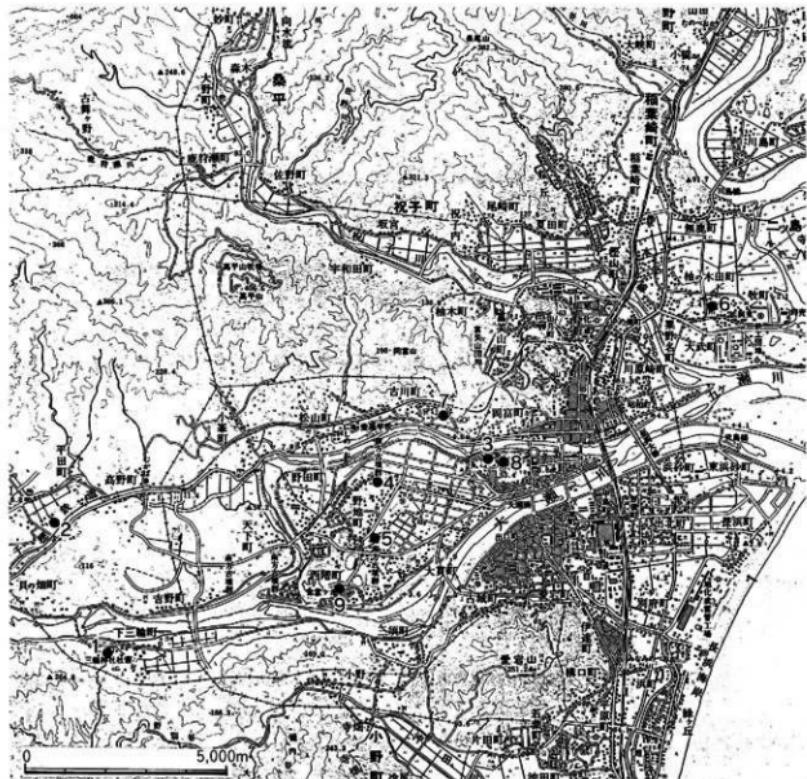


Fig. 1 平成16年度市内遺跡発掘調査地位置図 (1/60,000)

遺跡名	所在地(延岡市)	調査原因	調査面積	調査期間
①仲畑遺跡	下三輪町字仲畑	携帯電話無線基局	19.0m ²	平成16年4月7日～4月14日
②赤木遺跡(第10次)	舞野町字赤木	個人専有住宅	44.7m ²	平成16年4月6日～4月19日
③延岡城内遺跡(第11次)	本小路	宅地造成	64.0m ²	平成16年4月20日～5月7日
④木ノ下遺跡(第2次)	野地町字木ノ下	宅地造成	18.5m ²	平成16年5月10日～5月21日
⑤上無田遺跡(第4次)	野地町字上無田	クリニックマンション	7.0m ²	平成16年7月26日～7月30日
⑥大武遺跡	大武町字大武	宅地造成	45.0m ²	平成16年8月10日～8月16日
⑦上多々良遺跡(第2次)	古川町字上多々良	区画整理	82.0m ²	平成16年11月12日～12月27日
⑧延岡城内遺跡(第12次)	本小路	新庁舎建設	34.0m ²	平成16年12月15日～12月27日
⑨西階横穴	西階町字置露	不時発見	7.5m ²	平成16年4月22日～6月24日

表1 平成16年度市内遺跡発掘調査地一覧表

第2章 調査の記録

1. 延岡城内遺跡(第10次)

所在地 延岡市天神小路303外6筆
調査原因 民間宅地開発
調査期間 040202~040224
調査面積 200m²
処置 調査後破壊
担当者 尾方

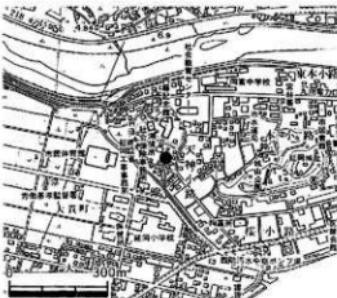


Fig. 2 延岡城内遺跡(第10次)位置図
(1/15,000)

(1)位置と環境

調査地は延岡城西ノ丸南側に隣接する低地であった。延岡城は1601~1603年にかけて初代延岡(県)藩主高橋元種によって築かれた県内最大の近世城郭である。南北を東流する五ヶ瀬川・大瀬川を天然の外堀とし、城内に内堀を築き、藩主の居宅があった西ノ丸と、本城の二郭で構成されている。城下には本小路、桜小路といった武家屋敷、五ヶ瀬川北岸及び大瀬川南岸にも武家屋敷などがつくられた。本城の東側には中町、南町、北町といった城下町がつくれられた。

延岡市では内堀で囲まれた範囲を、延岡城内遺跡とし調査を行っている。本調査はその10次調査にあたるが、近接した調査では平成14年の8次調査が上げられる。8次調査は本調査地の東に約300mの地点で行われている。延岡城関連の石垣を転用したと思われる築年代不明の礎石建物跡が検出されている。北側に隣接した井戸跡の外枠からは普請役所に奉納された石塔が転用されていた。出土遺物は近現代の陶磁器に混じり、藩政時代のものも多数出土している。

築城期頃の絵図には、本調査地付近まで内堀が描かれている。その後の絵図に描かれていない内堀である。

(2)調査の概要 (Fig.3)

調査は内堀跡の確認と遺構の検出に主眼を置き行った。調査区の北端、西ノ丸に最も近い位置にト

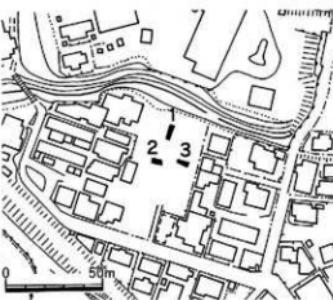


Fig. 3 延岡城内遺跡(第10次)調査区配置図
(1/2,500)

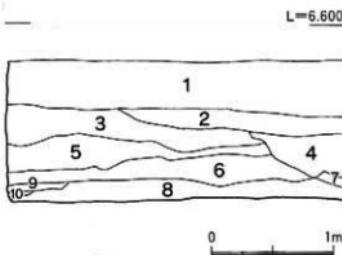


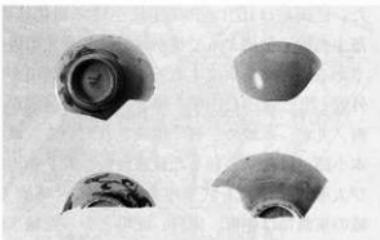
Fig. 4 延岡城内遺跡(第10次)トレンチ3土層断面図
(1/40)

レンチ1を設定し、内堀跡の検出を試みたが、土層断面等で確認することは出来なかった。堀の位置は調査区より、西側もしくは北側に可能性を残す事となった。この他にトレンチ2、トレンチ3を設定し、土層の観察を行った。各トレンチとも上部で近現代における搅乱が激しかった。Fig.4はトレンチ3の土層断面である。1は淡褐色土、2は淡暗褐色土（炭化物・岩土片を含む）、3は暗褐色粘質土（炭化物・土器片を含む）、4は暗褐色土（10cm前後の円礫を含む）、5は暗灰色土（炭化物・瓦片を含む）、6は赤茶褐色土（炭化物・岩土片含む）、7は暗灰褐色粘質土（荒砂・黄白色岩土ブロックを含む）、8は暗灰褐色粘質土（マンガン斑・鉄分斑を含む）、9は黄白色粘質土、10は黒色粘質土であった。1～7は造成土もしくは擾乱土と思われる。9・10層はどちらかの掘り込みとも判断されるが、調査区端のため、その存在は確認できなかった。また、第8次調査の結果を踏まえ調査区全面で遺構の精査を行ったが検出されなかった。

(3)検出遺構 なし。

(4)出土遺物 (PL. 1・Fig. 5)

Fig.5は本調査の出土遺物である。1～4の全てがトレンチ3より出土している。肥前系の18世紀後半～19世紀頃のものであった。1は磁器の小碗で内外面ともに淡黄白色の釉で施釉されている。2は染付碗で雪輪梅花文が施され、高台見込みに銘を有す。3は磁器碗蓋で外面に草花文を施す。4は青磁中皿で内面見込みに蛇目釉剥ぎが見られる。



PL. 1 延岡城内遺跡（第10次）出土遺物

(5)まとめ

今回の調査では新しい発見はなかった。予想以上に近世以降の破壊が大きく、今後の周辺地の調査での資料収集が待たれる結果となった。また、絵図に記載のある西ノ丸の内堀についても、今後の調査が待たれる。搅乱土中より弥生土器片も数点出土している。割れ口は鋭利で、付近に弥生時代の遺構等の存在も示唆される。

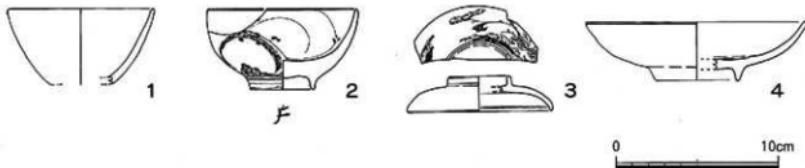


Fig. 5 延岡城内遺跡（第10次）出土遺物実測図（1/3）

2. 仲畑遺跡

所在地 延岡市下三輪町1564番5
調査原因 携帯電話無線基地局
調査期間 040407~040414

調査面積 19.0m²
担当者 高浦
処置 調査後破壊

(1)位置と環境

調査地は、市の西部、五ヶ瀬川流域に広がる水田地帯の中に、南から派生する丘陵の一角に位置する。周辺には江戸時代に築かれた岩熊井堰があり、この井堰から取り込まれた水路によって水田耕作が行われてきた地域である。現在は、高規格道建設が行われており、それに伴う道路改良工事や市道青谷城線の道路改良が行われている。眼下を流れる五ヶ瀬川の対岸には九州保健福祉大学が建設されており、近年開発の波が押し寄せていている地域もある。

調査地は標高約43mの地点に位置し、山林の中にあたる。ここは埋蔵文化財包蔵地として捉えられている。

(2)調査の概要

調査地は、北に向かい派生していた丘陵で北に向かい緩やかな傾斜地となっていた。調査は道路改良により丘陵の削平を受けたため、先端部に位置した。

調査はトレンチ法を採用し、土層観察と遺構検出を目的とし、植林された樹木に影響のない地点6ヶ所にトレンチを設定し人力による調査を行った。

調査の結果、各トレンチから延岡市の南方地区に見られる良好な土層堆積を確認することができた。堆積は地形のことから北に厚く堆積していた。この良好な堆積を確認したことから、遺構・遺物の検出・出土が期待されたが、調査を進めていくと土層の堆積が逆転することが確認された。これは丘陵上部から、何らかの要因により流れ込み堆積したものと判断された。下部より検出した通常の堆積部からも遺構・遺物の検出はできなかった。

(3)検出遺構

なし。



Fig. 6 仲畑遺跡位置図(1/15,000)

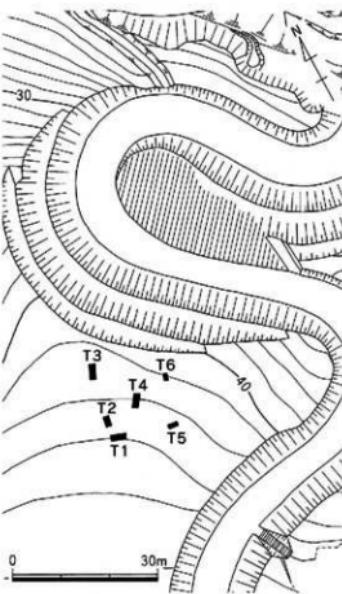


Fig. 7 仲畑遺跡調査区配置図(1/1,000)

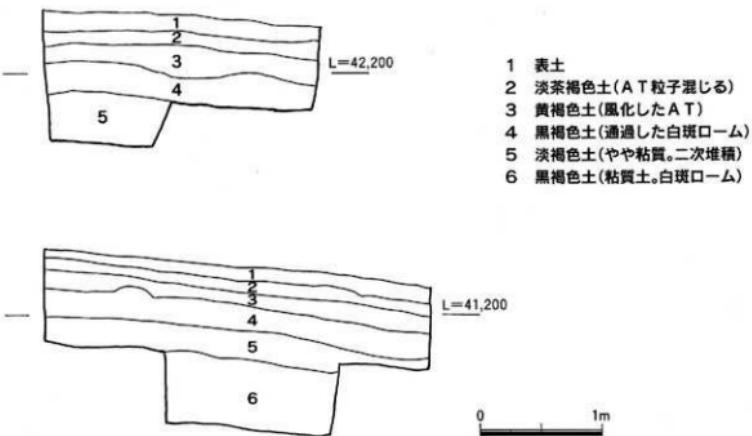


Fig. 8 仲畑遺跡トレンチ 2・3 土層断面図 (1/40)

(4)出土遺物

なし。

(5)まとめ

今回の調査では、南方地区に見られる良好な土層堆積及び二次堆積を確認した。今回の調査では、遺構・遺物の検出はできなかったが調査地周辺の丘陵には良好な土層堆積があることが予想される。

ここ下三輪地区は、高規格道路開通後大きな開発が押し寄せる地域の一つと考えられ、今後の開発には注意を要し対応していかなければならないと考える。



PL. 2 仲畑遺跡調査風景

3. 赤木遺跡（第10次）

所在地 延岡市舞野町2175-1
調査原因 個人専有住宅建築
調査期間 040406~040419
調査面積 44.7m²
処置 調査後破壊
担当者 尾方

(1)位置と環境

当遺跡は、行謙山から南に派生したものが、さらに東に向かって派生する舌状丘陵で、東に分岐する付け根部分付近に位置する。丘陵は五ヶ瀬川支流の行謙川右岸に位置し、標高は約49mを測る。南には国道218号線と高千穂鉄道が東西に走っている。

この丘陵上には旧石器時代から古墳時代の遺跡が数多く分布している。赤木遺跡は1985年、ナイフ形石器を中心とする赤木第1文化層、細石器を中心とする赤木第2文化層の2つの文化層が確認された調査を皮切りに、確認調査を含め9次にわたる調査が実施してきた。平成15年の第8次調査は一般国道218号北方延岡道路建設に伴う発掘調査で、宮崎県埋蔵文化財センターにより実施され、弥生時代の住居跡や縄文早期の集石造構、多くの遺物が出土している。

また、丘陵上に点在する古墳群は国史跡南方古墳群の一支群で舞野支群と称され、調査地には第20号墳が近接している。第2次調査では第21号墳の範囲確認調査が実施され周溝が確認されている。また、平成15年の第9次調査では第22号墳の周溝が確認されている。

(2)調査の概要

調査は台地の北縁部あたり、第8次調査地に近接する。調査は土層の堆積状況を確認することに主眼を置きトレンチ法を採用した。トレンチは調査地の四隅にトレンチ1~4を調査地の中心付近にトレンチ5の5箇所を設定した。

調査地の基本層序は、トレンチ3の土層断面 (Fig.



Fig. 9 赤木遺跡（第10次）位置図(1/15,000)

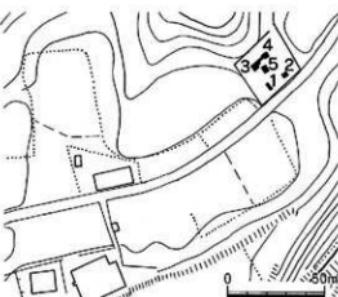


Fig. 10 赤木遺跡（第10次）調査区配置図
(1/2,500)

L=48.00

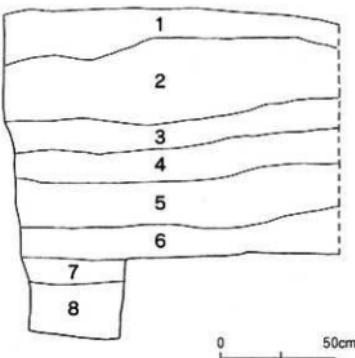


Fig. 11 赤木遺跡(第10次)トレンチ3土層断面図(1/20)

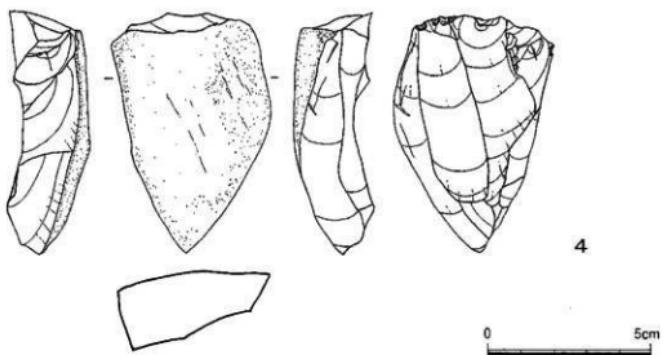
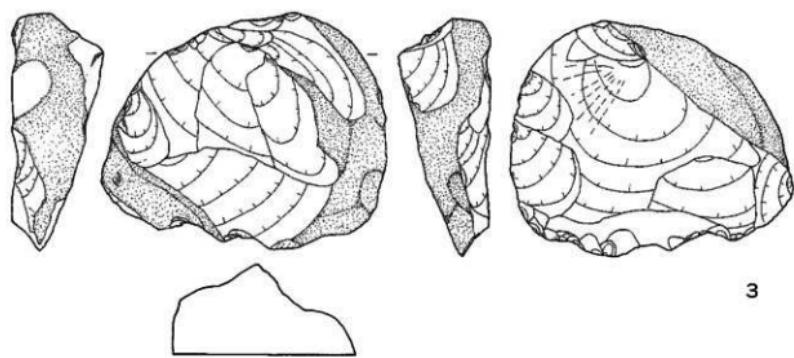
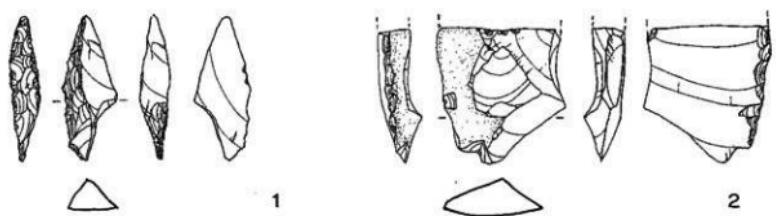


Fig.12 赤木遺跡（第10次）出土石器実測図（2/3）

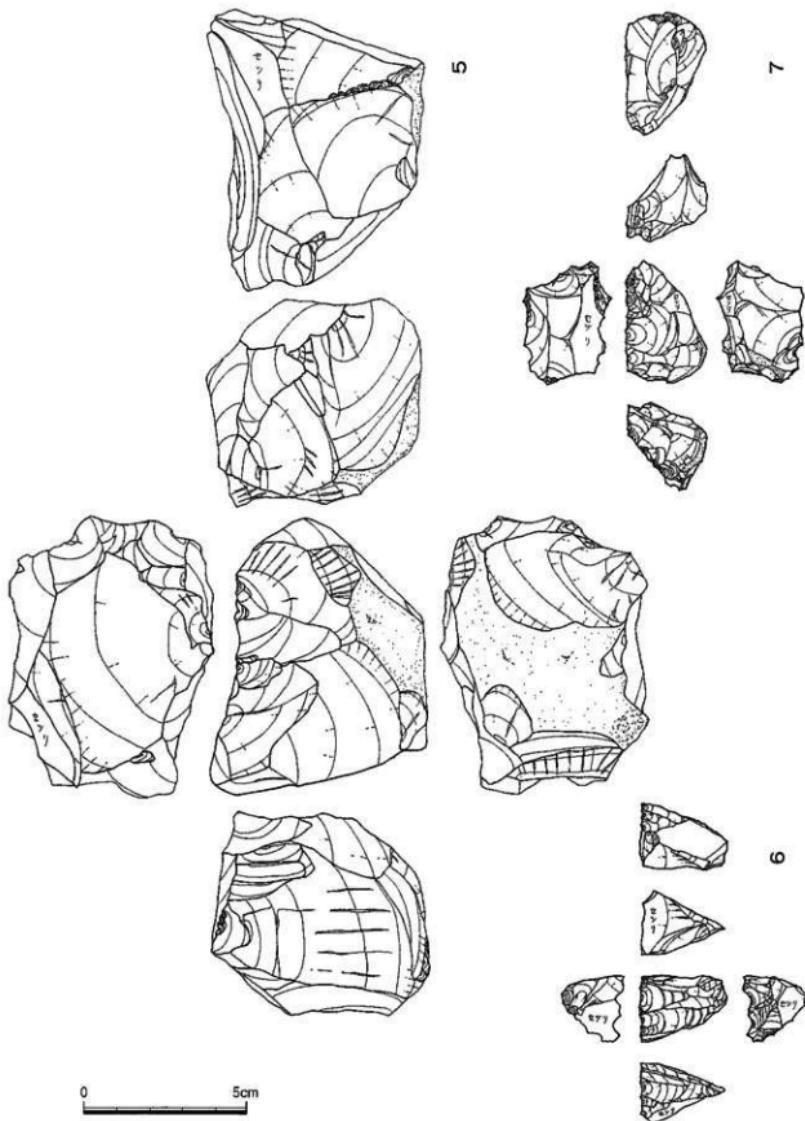


Fig.13 赤木遺跡（第10次）出土石器実測図（2/3）

11)に示すとおりである。1 黒色土、2 黒色・褐色混土層、3 黒色土（アカホヤを含む）、4 アカホヤ火山灰層、5 黒色土、6 褐色土、7 暗褐色土、8 明褐色粘質土であった。1～3層は後世の擾乱土であった。

トレンチ1～2では遺物の出土も無く、遺構も検出されていない。トレンチ3～5では遺物が出土しているが、数も少なく、散漫な状況であった。トレンチ3をトレンチ4に向かい拡張したが、遺物等の出土は無かった。

(3)検出遺構

なし。

(4)出土遺物 (Fig.12・Fig.13)

1はナイフ形石器でトレンチ5の6層出土である。2はスクレイパーで欠損している。レキ面を残し、一側縁に加工を施し刃部を形成している。トレンチ3の5層出土である。3は礫器でトレンチ3の7層上面で出土している。レキ面を残し、側縁と下部に主要剥離面から加工を施している。4は表探資料の剥片である。背部はレキ面を残している。打面を調整し、一定方向に剥片を作出している。5は表探資料の石核である。下部に一部レキ面を残している。打面を一部転移させ剥片を作出している。6は細石核でトレンチ4の5層出土である。一定方向から丁寧に剥離が行われている。7はトレンチ3の5層下部よりの出土した石核で、打面を転移し剥片を作出している。

(5)まとめ

今回の調査では明瞭な石器群の検出には至らなかった。しかし、赤木遺跡の広がりの一端を伺い知ることが出来た。今後も引き続き周辺地の保護と開発との調整を行っていく必要がある。



PL. 3 赤木遺跡（第10次）出土遺物

4. 延岡城内遺跡（第11次）

所 在 地	延岡市本小路50番1、54番2	調査面積	64.0m ²
調査原因	宅地造成	担当者	高 浦
調査期間	040420~040507	処 置	調査後破壊

(1)位置と環境

調査地は、市の中心にある延岡城の北側、五ヶ瀬川沿いに位置する。周辺にはカルチャープラザのべおか（図書館）や岡富中学校、延岡城の西ノ丸（内藤記念館）が位置する。

調査地周辺は、カルチャープラザのべおか建設や本小路通線道路改良工事に伴う発掘調査が行われている。カルチャープラザのべおか建設に伴う調査では、絵図に描かれている内堀や馬屋跡が確認されている。また、その調査で弥生時代の遺構・遺物が大量に出土し、この周辺は弥生から近世にかけての複合遺跡が眠る地域として認識されている。

本小路通線道路改良工事に伴う調査では、同様の遺構・遺物の出土が期待されたが、開発範囲の狭量や予想以上の攪乱により、期待された成果は得られなかった。

今回の調査地は、江戸期の絵図史料から武家屋敷や下御殿、河原口門が描かれており、それらに関係する遺構・遺物の出土や、弥生時代の遺構・遺物の出土が期待された。

(2)調査の概要

調査地は開発面積が狭いことからトレント法を採用し、土層観察と遺構検出を目的とし6ヶ所にトレントを設定し実施した。

トレント1からは砂層が検出され、調査地は五ヶ瀬川の氾濫による堆積層であることが確認された。下層に掘り進んだが、堆積に変化も見られず、遺構・遺物の検出もできなかった。

中央に設定したトレント4・5からは、建物の柱を建てるための礎石根固め跡を検出した。西端に設定したトレント3からは、石列遺構が検出された。構造的に連続しているものと考えられたため、石列遺

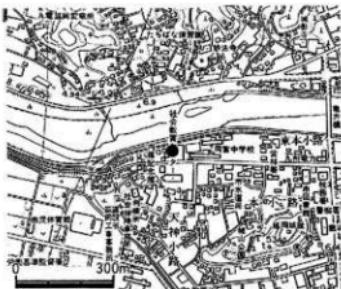


Fig.14 延岡城内遺跡（第11次）位置図
(1/15,000)

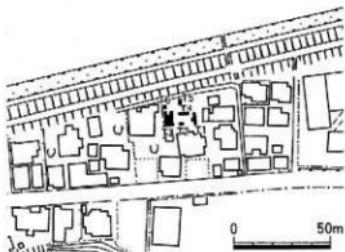


Fig.15 延岡城内遺跡（第11次）調査区配置図
(1/2,500)



PL.4 延岡城内遺跡（第11次）調査風景

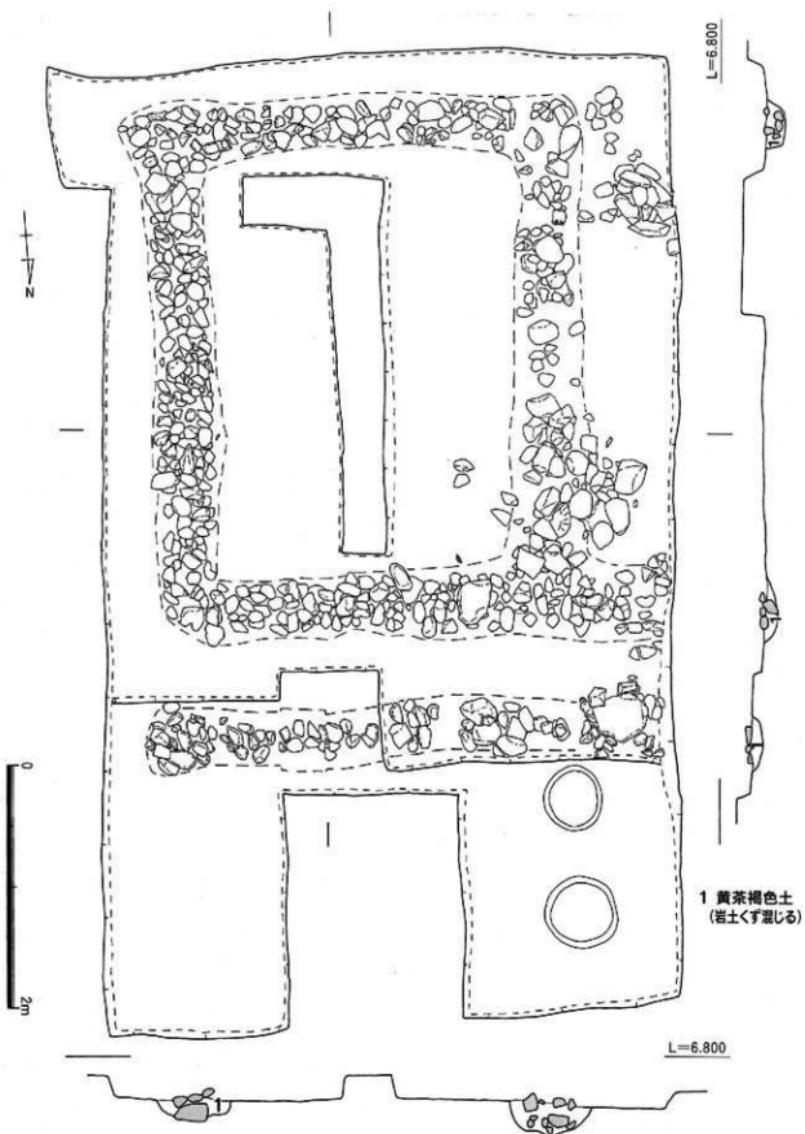


Fig.16 延岡城内遺跡（第11次）トレンチ3検出構造分布図（1/40）

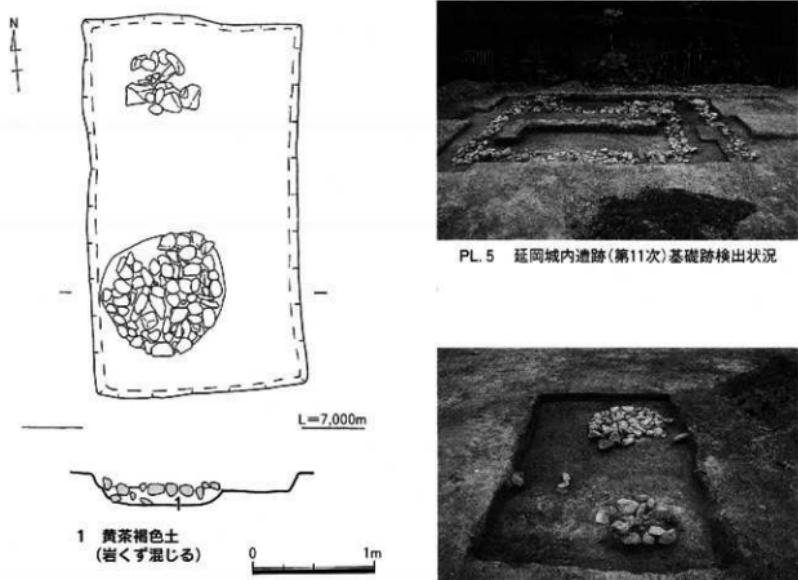
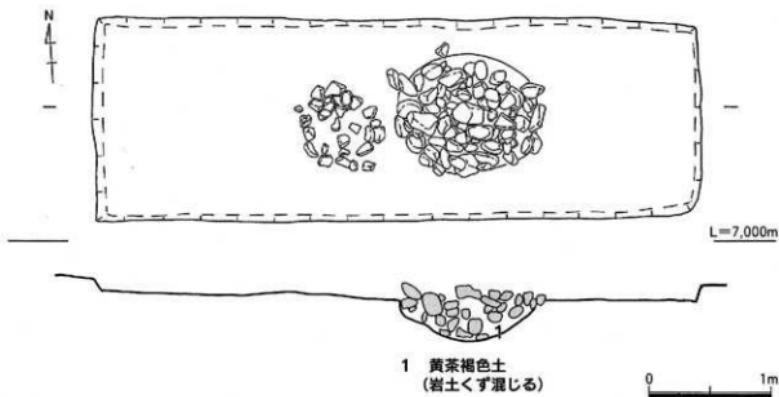


Fig.18 延岡城内遺跡（第11次）トレンチ5検出遺構分布図（1/40）

PL. 6 延岡城内遺跡(第11次)礎石跡検出状況

構の性格と構造を確認するため範囲を拡大し調査を行った。

その結果、調査区の西半分において建物の基礎跡を検出した。周辺の聞き取り調査を実施したところ、調査地に近代に建てられた建物の離れが存在していたことが明らかとなった。

(3) 検出遺構 (Fig.16.17.18)

近代の建物跡（離れ）を検出した。拳大から人頭大にかけての礫を使用し、縦約5.5m、横約4.3mを測る。基礎跡は、調査区外へ広がるものと判断された。基礎跡の北西では、大小二つの堀が埋め込まれており、トイレとして使用されていたと判断された。調査区内では、礎石の根固め跡も確認され、調査区内で二棟の建物が存在していたと考えられる。

(4) 出土遺物 (Fig.19)

陶磁器が出土した。1～7はすべて建物跡（離れ）基壇内より出土した。1は、磁器のミニチュア玩具である。近代の関西系か瀬戸・美濃系のものと見られる。花文様が施されている。2は、青磁の碗である。豊付け露胎である。近代のものと見られるが、産地は不明である。3は、磁器の皿である。近代のものである。銅板転写の丸文が施されている。4は、磁器の皿である。近代の瀬戸・美濃系のものである。内面に印版で色絵の花草文が施される。5は、磁器の皿である。近代の瀬戸・美濃系のものである。盤形皿で、内面に印版で色絵の花文が施される。6は、磁器の瓶と見られる。19世紀の肥前系のもので、山水文が施されている。7は、急須の蓋で、近代の関西系か瀬戸・美濃系のものと見られる。外面に草花文が施されている。

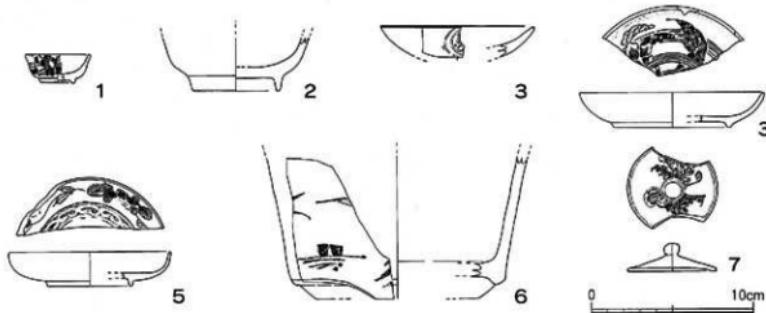


Fig.19 延岡城内遺跡（第11次）出土遺物実測図（1/3）

(5)まとめ

今回の調査では、近世はもとより弥生時代の遺構・遺物の存在を確認することができなかった。

今回の調査から、砂層が検出されたことよりこれまでの調査と検証を進め、五ヶ瀬川の流路、氾濫や堆積層の広がりといった、古環境の解明に努める必要があろう。

5. 木ノ下遺跡（第2次）

所在地 延岡市野地町4丁目3282、3285
調査原因 宅地造成
調査期間 040510~040521

調査面積 18.5m²
担当者 高浦
処置 調査後破壊

(1)位置と環境

当遺跡は、市街地から約1.9km 西方にある、標高約20mの丘陵上に位置する。調査地の丘陵は、国指定南方古墳群第34~36、41号墳（前方後円墳1基、円墳3基）が立地する場所にあたる。平成15年度に、同丘陵で実施した発掘調査では、新発見となる円墳1基が確認され、調査により5C後半に築造され、その後6C前半に追葬された時期差のある主体部2ヶ所を伴う古墳であることが確認されている。今回の調査地は丘陵北側にあたる平坦部で、南方古墳群第41号墳（円墳）の隣地に位置する。



Fig.20 木ノ下遺跡（第2次）位置図
(1/15,000)

(2)調査の概要

調査地は丘陵上に位置し、重機等の搬入が不可能であることから人力によるトレンチ法を採用し、土層観察と遺構検出を目的とし4ヶ所に設定し実施した。41号墳は前方後円墳ではと指摘されることから、古墳に関連する遺構の存在がないか注意を要し調査を実施した。

調査の結果、各トレンチからすぐに段丘礫が検出され期待していた41号墳に関連する遺構・遺物の出土はなかった。

(3)検出遺構

なし。

(4)出土遺物

なし。

(5)まとめ

今回の調査では、埋蔵文化財は確認されなかったものの、平成15年度調査時にも段丘礫が検出され、当丘陵の堆積状況を知る資料が得られた。



Fig.21 木ノ下遺跡（第2次）調査区配置図
(1/2,500)



PL.7 木ノ下遺跡（第2次）調査風景

6. 上無田遺跡（第4次）

所在地 延岡市野地町1丁目4070-1外
調査原因 クリニックマンション
調査期間 040726~040730

調査面積 7.0m²
担当者 高浦
処置 調査後破壊

(1)位置と環境

調査地は、市の中西部に分布する低丘陵群にある人見山丘陵の北西端部に位置する。調査地は、近年食料品店の開発により丘陵の一部が削平を受けていた状況であった。周辺に分布する低丘陵には、国指定の南方古墳群が分布しており、ここ人見山の丘陵上にも第33号墳（円墳）が所在している。調査地の丘陵はこれまで3次にわたる確認調査が行われ、調査により縄文～中世に至る複合遺跡の存在が確認されている。今回の調査地は丘陵北面端部に位置する。



Fig.22 上無田遺跡（第4次）位置図
(1/15,000)

(2)調査の概要

調査地は開発面積は広いものの、開発による削平が著しく開発範囲端部に残る丘陵裾部で実施した。調査はトレンチ法を採用し、土層観察と遺構検出を目的とし3ヶ所に設定し実施した。

その結果、丘陵法面に設定したトレント1では、すぐに地山を検出した。丘陵中腹及び上部に設定したトレントからもすぐに地山が検出され、遺構・遺物の確認はできなかった。



Fig.23 上無田遺跡（第4次）調査区配置図
(1/2,500)

(3)検出遺構

なし。

(4)出土遺物

なし。

(5)まとめ

今回の調査では、丘陵がすでに削平されていたため埋蔵文化財は確認されなかった。これまでの周辺調査結果を考えると、当丘陵も開発前には何らかの遺構・遺物の存在が考えられるだけに、非常に残念な結果であった。



PL.8 上無田遺跡（第4次）調査風景

7. 大武遺跡

所在地 延岡市大武町4599-1外
調査原因 宅地造成
調査期間 040810~040816

調査面積 45.0m²
担当者 高浦
処置 調査後破壊

(1)位置と環境

調査地は、南を流れる祝子川と、北を流れる北川によって形成された沖積地帯で、市街中心部から北東約2kmの地点に位置する。周辺には水田、畑作が営まれている。調査地周辺の栗野名町、大門町、袖の木田町、牧町には、県指定の延岡古墳群が点在している。

調査地は市内でも古い時に建立された大武寺が隣接しており、大武遺跡として埋蔵文化財包蔵地として取り扱われている。

(2)調査の概要

調査地は開発面積が広いことから重機によるトレチ法を採用し、土層観察と遺構検出を目的とし4ヶ所に設定し実施した。

調査により約1.3~1.7mの客土を確認し、その下層から現在に営まれていたと見られる水田面を検出した。さらに下層に掘り進んだが、時期的なものも影響してか激しい湧水が認められ、調査が困難な状況になった。そのためトレチの壁面観察を行ったが、現代に営まれていた水田基盤層以外認めることができなかつた。

(3)検出遺構

なし。

(4)出土遺物

なし。

(5)まとめ

今回の調査では、時期的なものもあり調査が困難であった。調査地は大武遺跡の端部に位置し、調査結果から遺跡の範囲を検討する必要があろう。



Fig.24 大武遺跡位置図 (1/15,000)



Fig.25 大武遺跡調査区配置図 (1/2,500)



PL. 9 大武遺跡調査風景

8. 上多々良遺跡（第2次）

所在地 延岡市古川町
調査原因 区画整理事業
調査期間 041112～041227

調査面積 82m²
担当者 尾方
処置 繼続協議

(1)位置と環境

当遺跡は、市の北部に位置する高平山から、南の五ヶ瀬川に向かって派生する舌状丘陵に囲まれた平野部に位置する。この岡富・古川地区は、五ヶ瀬川の氾濫に悩まされてきた土地である。

周辺には古墳時代の遺跡が数多く確認されている。調査地の西側の丘陵には昭和43年に調査され、阿蘇溶結凝灰岩製の石棺内から、全長約19cmの非常に大きな鐵鏡4本や短甲残欠が出土した古川（伊勢ノ前）古墳が存在している。調査地東側の丘陵は、平成10年度に実施した区画整理事業に伴う確認調査で尾根筋に沿って3基の箱式石棺と、土器集中部、また、主体部は確認できなかったが鉄劍や土器片が出土した地点など、遺構の存在する可能性が高い7箇所を確認している（上多々良箱式石棺群）。この丘陵の南裾部には2基の箱式石棺が露出し、更に南側には宮崎県指定延岡古墳群第34号墳が存在し、3基の横穴があり、勾玉2点が出土している。この他、平成9年の調査では上多々良箱式石棺群の東側丘陵で円墳1基を確認するとともに、現在の水田内のトレンチより中世代の土器を検出している（上多々良遺跡）。

上多々良遺跡及び上多々良箱式石棺群は、事業が予定されている岡富・古川地区区画整理に伴い確認調査を実施しているもので、上多々良遺跡は1次、上多々良箱式石棺群は2次の調査が終了している。上多々良箱式石棺群は平成17年度から本調査の実施が決定している。今回の調査は上多々良遺跡の第2次調査にあたるが、区画整理予定地内で唯一、未確認だった地区である。平成9年に実施した1次調査は、上多々良箱式石棺群の所在する丘陵を挟んで東側に位置する。



Fig.26 上多々良遺跡（第2次）位置図
(1/15,000)



Fig.27 上多々良遺跡（第2次）調査区配置図
(1/2,500)

(2) 調査の概要

調査地が広いため、調査区を3区にわけて行った。調査地の東南部の水田を1区、東の丘陵裾部を2区、調査地の北部の水田を3区とし、調査を実施した。水田跡の検出に主眼を置き、トレンチ法を採用した。1区、3区は現在の水田面にあたるため、湧水が多く、排水をしながらの調査となった。

1区は全て現在の水田地である。5箇所のトレンチを設定した。上多々良箱式石棺群の存在する丘陵に最も近い水田にトレンチ1・2を設定した。その西側の水田にトレンチ3を設定し、西に向かい順にトレンチ4、トレンチ5を設定した。

1区の層序は各トレンチ間の距離が離れているが、比較的に連続した堆積状況が確認できた。Fig.28は1区の各トレンチの土層断面図である。1は暗青灰色粘土層で、現在の水田耕作土である。2は淡青灰色粘質土層で暗褐色の鉄分を含み、現在の水田基盤層である。2'は2より鉄分が少なく、2"は2にマンガン斑を含む層である。3は淡青灰色粘質土層で淡茶褐色のマンガン斑を多く含み、3'は3よりマンガンが多く含まれ、3"は更に多くのマンガンが含まれる。4は青灰色粘土層で鉄分を多く含む。5は青灰色粘土層である。6は暗青灰色粘土層でマンガン斑を含んでいる。7は淡黄白色粘質土層で、7'は7にマンガン斑を多く含んでいる。8は青灰白色粘質土層で、8'は8にマンガン斑を多く含んでいる。9は青灰白色粘土層である。10は淡青灰色粘質土層で10'は10より、ややマンガンが多く含まれる層である。トレンチ1・2の3～5層にかけては古墳時代の遺物が出土している。

水田面の検出に主眼を置いた調査であったが、層の重なりや連続性を考慮すると、少なくとも現水田面の下に水田面の可能性が高いと判断されるが、土層断面では明瞭な畦畔等は確認できなかった。プラントオパールの結果を待つこととなる。トレンチ5の10層では江戸後期の陶器が出土している。トレンチ1・2では、約40点の土器等が出土している。上多々良箱式石棺群に近く、比較的大きめの破片等もあり、近くに遺構等の可能性も考慮される。

2区は、上多々良箱式石棺群の丘陵から西に向か

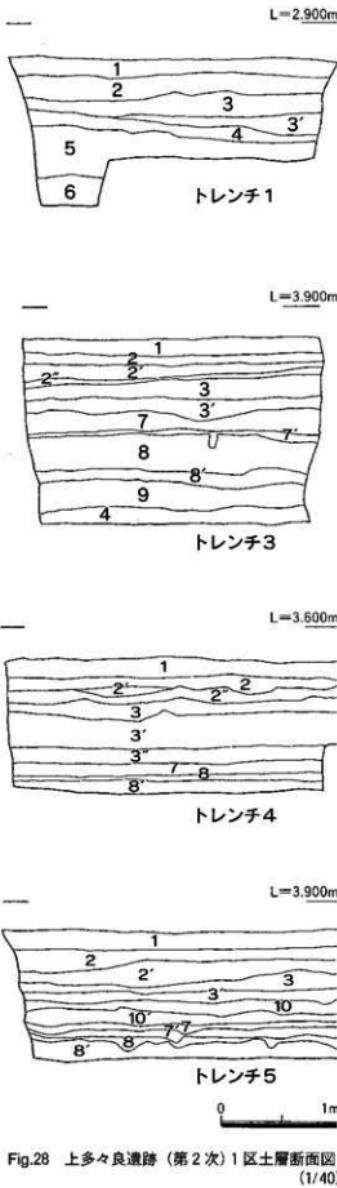


Fig.28 上多々良遺跡（第2次）1区土層断面図
(1/40)

い派生する丘陵の裾部である。現在の畑地に2箇所のトレンチを設定した。Fig.29は、トレンチ2の土層断面である。1は褐色土層で現在の耕作土である。2は淡褐色土層である。3は茶褐色土層である。4は暗茶褐色粘質土層で炭化物の粒が混じっている。トレンチ1は丘陵の上の方に設定したため、2層の直下より当地の地山である黄白色岩土層が検出された。4層は旧水田層の可能性が考慮される。

3区は調査地で最も北側の水田に、2箇所のトレンチを設定した。Fig.29はトレンチ2の土層断面である。1は暗灰褐色粘質土層で現在の水田耕作土である。2は淡橙白色粘質土層で現在の水田基盤層であるが、あまり硬化していない。3は淡灰褐色粘質土層である。4は淡黄灰白色粘質土層で鉄分が多く含んでいる。5は灰白色粘土層で硬くしまる。6は淡黄灰白色粘質土層で鉄分が多く含んでいる。7は淡黄灰褐色粘土層で層の下部に暗橙色の鉄分の凝固が見られる。8は暗灰褐色粘土層でマンガン斑を多く含んでいる。各層ともに遺物の出土は無かった。3区でも旧水田層になりうる層が見られるが、プラントオバールの結果待ちとなつた。

(3) 検出遺構

なし。

(4) 出土遺物 (Fig.30)

1～7の出土遺物は全て1区からの出土である。1はトレンチ2出土の小皿である。内外面とも灰白色の色調を呈す。風化のため調整は不明であるが、内面口縁部付近に2本のケズリ痕が見える。硬くしまっており、須恵質の土器である。2はトレンチ1出土の須恵器蓋である。つまみ部のみが出土した。3は壺で内外面とも淡赤褐色の色調を呈す。口縁部は横方向のナデ、胴部は縦方向のナデで調整を施している。4はトレンチ2出土の小型の壺である。1と同様に内外面とも灰白色の色調を呈す須恵質の土器である。内面の胴部に3本のケズリ痕が見える。5はトレンチ1出土の壺である。内外面とも淡赤褐色の色調を呈す。外縁の調整は風化のため不鮮明だが、口縁部内面は斜め方向にナデ調整が見える。口唇部に指押さえ痕が残っている。6はトレンチ1出土の壺で内外面とも赤褐色の色調を呈す。風化のため調整は不鮮明である。7はトレンチ1出土の壺である。口縁部はほぼ垂直に立ち上がっている。外縁部は横ナデによる調整、胴部はタタキによる調整が施されている。内面は斜め方向へのナデ調整が見られる。

(5)まとめ

古代の水田跡を確定することはできなかった。調査対象地の全て調査することが出来ず、今後、延岡市区画整理課と継続して協議を行い、残る西側及び南側の確認調査を行っていきたい。

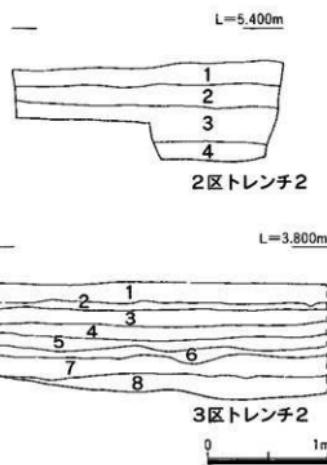


Fig.29 上多々良遺跡(第2次)2区・3区土層断面図
(1/40)

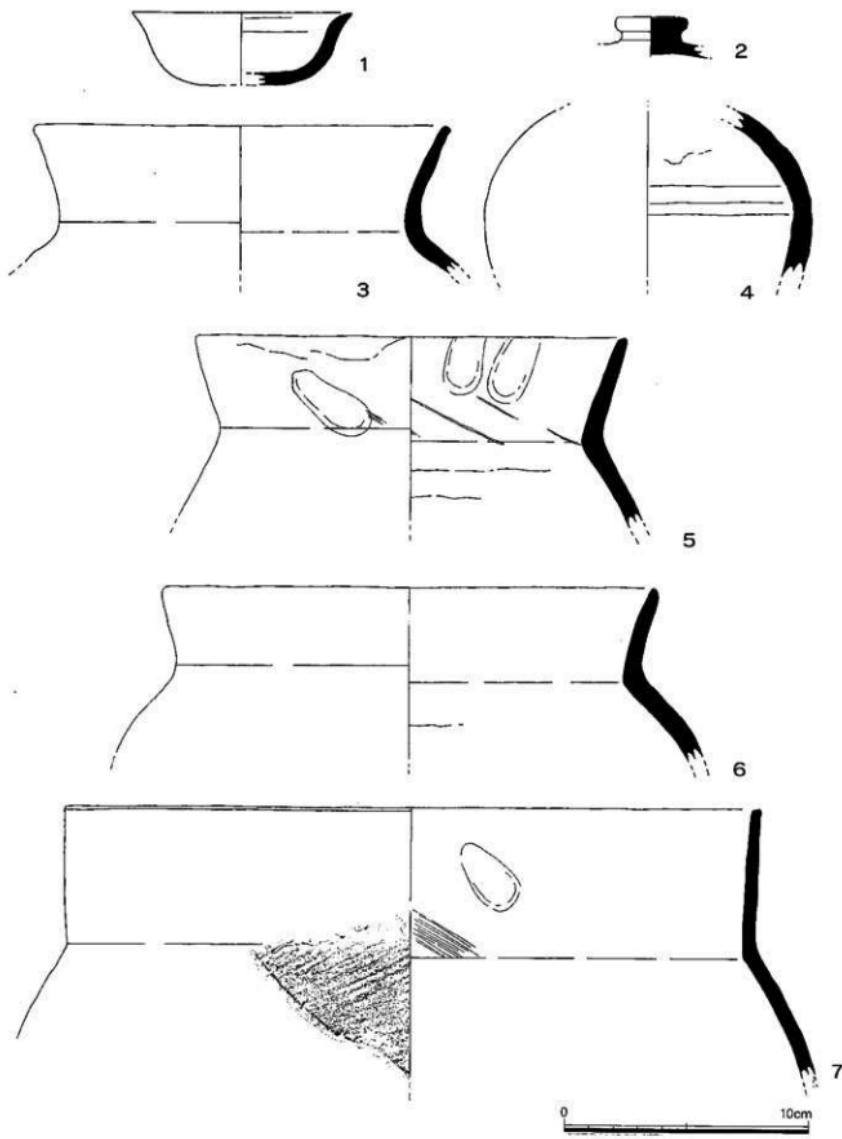


Fig.30 上多々良遺跡（第2次）出土遺物実測図（1/2）

9. 延岡城内遺跡（第12次）

所 在 地 延岡市本小路77-1
調査原因 新庁舎建設
調査期間 041215~041227

調査面積 34.0m²
担当者 高浦
処置 本調査

(1)位置と環境

調査地は、市の中心に位置する延岡城の北側、通称川中地区にあり、現在は延岡市水道局の駐車場として利用されている。調査地は、近世城郭である延岡城を中心に、弥生時代から近世に至る複合遺跡として認識されている。

調査地周辺は今まで数多くの調査が行われている。眼前を走る本小路通線道路改良に伴う発掘調査では、内堀跡や調査範囲が狭量のため造構の性格が不明であったが大きな落ち込み跡が確認されている。水道局敷地内にある新庁舎建設に伴う発掘調査では、石垣跡や井戸跡が2基、大溝1状、土坑、柱穴群が確認されている。

今回の調査地の隣地において、延岡城に関連する良好な造構が数多く確認されていることから、今回の調査においても大きな期待がもたれた。

(2)調査の概要

調査地は水道局駐車場であることから、業務・来客に支障をきたさないよう配慮し、可能な限り調査範囲を確保し、その中で2ヶ所のトレンチを設定し実施した。

トレンチはこれまでの調査結果から、盛土が行われている事が予想されたため、重機を使用し土層観察と造構検出に主眼をおき実施した。

その結果、トレンチ1の約1/2から旧水道局の庁舎の基礎跡が確認された。基礎は予想以上に深く、周辺調査と比較すると既に造構面が破壊されているものと判断された。しかしトレンチの残部から柱穴群を検出することができた。東に設定したトレンチ



Fig.31 延岡城内遺跡（第12次）位置図
(1/15,000)

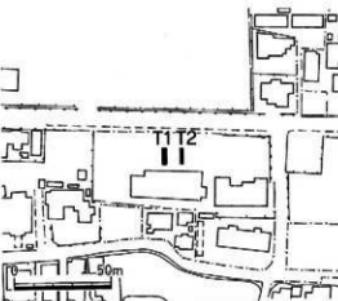


Fig.32 延岡城内遺跡（第12次）調査区配置図
(1/2,500)

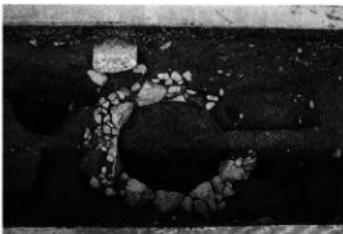


PL.10 延岡城内遺跡(第12次)トレンチ1土層断面

2からも、トレンチ1同様に1/2は基礎跡で破壊されていることが明らかとなつたが、幸いなことに井戸跡の残存を確認することができた。このことから、調査地に武家屋敷に関連する埋蔵文化財が確認された。

(3)検出遺構

各トレンチより柱穴を検出した。またトレンチ2では井戸跡を検出している。井戸跡は、最大で内径1.15m×1mの梢円形を呈す。主に約20~40cmの花崗斑岩の角礫を用い組み上げられ、各石の間に拳大程度の河原石を詰め込まれた構造になっている。確認調査のため全容を明らかにしていないが、本調査を実施し詳細の把握に努めたい。



PL.11 延岡城内遺跡(第12次)井戸跡検出状況

(4)出土遺物 (Fig.33)

縄文から近世・近代にかけての、様々な遺物が出土している。1、2は、管状土錘である。3は、井戸内埋土中より出土した陶器の皿である。内面と外面の一部に施釉が施されている。17世紀後半の唐津のものと見られる。4は、表探資料の土師器の皿である。風化している。

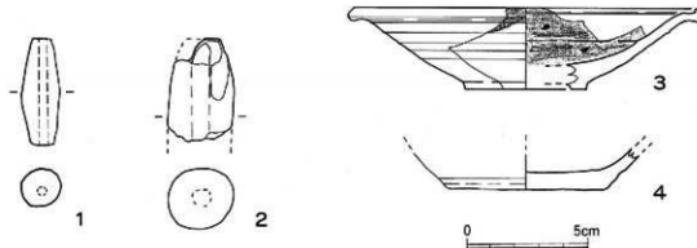


Fig.33 延岡城内遺跡(第12次)出土遺物実測図(1/2)

(5)まとめ

今回の調査から開発予定地に、江戸期にかかる武家屋敷跡の存在が明らかとなった。このことから担当課である下水道課と埋蔵文化財の取扱について協議を行った。協議の結果、庁舎建設の計画変更は不可能との見解に達したため、確認調査に引き続き本発掘調査を実施し、記録保存措置を取ることになった。主な遺構・遺物の出土については、本発掘調査報告書に掲載する。

10. 西階横穴

所在地	延岡市西階町2丁目4562・4563	調査面積	7.5m ²
調査原因	不時発見	担当者	尾 方
調査期間	040422～040624	処置	保 存

(1) 調査に至る経緯

当遺跡は、昭和39年頃に行われた西階総合開発事業で整備された西階運動公園内のモデル遊園内に所在する。西階運動公園は陸上競技場・野球場・テニス場・弓道場などを備えた運動公園である。モデル遊園は遊具を備えた公園で、半日・休日間わず多くの子どもたちの遊び場となっている。

平成16年4月5日に、このモデル遊園を管理する延岡市都市計画課公園係より「遊園内の斜面に穴が開き、子どもたちが危険なので埋めたいのだが、遺跡ではないのか?」との連絡を受けた。延岡市教育委員会文化課で確認をしたところ横穴の可能性が高いことから協議を行った。宮崎県教育文化課とも協議を行い、調査後に埋め戻すという結論に達した。平成16年4月9日付延教文第34号で文化財保護法第57条の6第1項による「遺跡発見の通知」を行い、同4月22日より調査に着手した。

(2) 位置と環境 (Fig.34)

当遺跡の所在する西階町は周辺の野地町、野田町、大貫町とともに延岡市の中西部に位置し、市街地に近く、交通の便等も良いことから宅地化が進んでいる地区である。五ヶ瀬川、大瀬川に囲まれた地区で、平野部と低丘陵地で構成されている。この低丘陵地では、数多くの遺跡が確認されている。

調査地の西には、①西階城または宝坂城とも呼ばれる中世の山城が所在する。永享1年(1429年)に土持全宣が築いた城である。城のすぐ西側は五ヶ瀬・大瀬川の分岐点で、2つの川に挟まれた丘陵上に築かれている。東側は現在は、陸上競技場などがある運動公園になっているが、当時は湿田が広がり、絶好の要害の地であった。敵対関係にあった西の三川井氏、南の伊東氏に備える城であったが、次第に勢力を増す南の伊東氏に警戒し、土持氏はわずか20年足らずで、北の松尾城へと移っていく。

遺跡周辺には、この他に数多くの古墳が点在している。遺跡より北東に約1kmには、②国指定南方古墳群大貫支群が分布する丘陵がある。前方後円墳1基(39号)、円墳9基(24号～32号)で構成される。③32号のみ調査地の北東に約500mの地点に離れて分布している。大正2年に横穴式石室を持つ24号、昭和4年に32・39号が鳥居龍藏氏によって行われている。また24号は昭和53年に石室の修復に伴い、調査が行われている。24号からは鉄鏃・丸玉・須恵器片が出土している。32号からは刀子・鉄製鏃・虎頭鎧・鉄釘・鉄製円板が出土している。この32号の所在する丘陵の麓から横穴が出土している。鳥居龍藏氏は、その著書『上代の日向延岡』で『丸塚山の横穴』と報告している。この横穴については後述する。39号は東西方向に置かれた割竹形木棺を主体部に持ち、棺束より歯の断片・鉄劍・竹櫛が、棺西より短甲・兜・矛・盾の把手・直刀・鉄劍・蛇行剣・鐵斧・竹櫛が出土している。

遺跡の北に約2kmの地点には、④南方古墳群野地・野田支群の分布する丘陵がある。野地・野田支群は前方後円墳1基(34号)、円墳8基〔33号・35号～38号・41号・未指定2基(地蔵ヶ森古墳・野地古墳)〕で構成される。丘陵上に34号～36号、41号、野地古墳が集中して分布し、33号・37号・38号・地蔵ヶ森古墳は点在している。調査例は少なく、昭和4年に鳥居龍藏氏が地蔵ヶ森古墳の調査を行っている。粘土櫛2基を検出するも盗掘のため、遺物は残っていなかった。野地古墳は、平成15年に急傾斜地崩壊対策事業に伴い、延岡市教育委員会文化課が調査を行い発見した古墳である。墳丘は失われていたが、周溝の一部と割竹形木棺2基の主体部を検出している。主体部Aは、柏外で直刀破片・刀子2・鉄鎌1・馬具片1・不明鉄器1・須恵器片・土師器片が出土している。柏内からは鉄劍2・短劍1・鉄鎌29・馬具片1・不明鉄器1・錐1・勾玉1・ガラス製小玉32が出土している。主体部Bからは鉄劍1・短劍1・鉄斧1・鉄鎌34・ヤリガンナ1・管玉2が出土している。この野地古墳から南に約0.5kmの丘陵には⑤古墳時代の石人が所在する。詳細な調査は行われていない。また、この丘陵据には⑥「ガンガン石」と古くから呼ばれる巨石が露出している。詳細な調査が行われていないが、横穴式石室の一部ではないかと考えられる。

遺跡の西に約1kmの五ヶ瀬川を隔てた丘陵上には、⑦南方古墳群天下支群が分布している。天下支群は前方後円墳3基(1号・5号・10号)、円墳7基(2号～4号・6～9号)、⑧横穴1基(40号)で構成される。大正2年に7・8・10号、大正14年に3・4号、昭和4年に40号が鳥居龍藏氏によって調査されている。3・4・7・8号とともに主体部は阿蘇溶結凝灰岩製の組合式石棺であった。7号からは直刀・鉄劍・刀子・矛・勾玉・管玉・ガラス製小玉が出土。8号からは直刀・鉄劍・鉄鎌が、柏外から直刀・鏡(変形乳文鏡)が出土している。3号からは鉄鎌片・土器片が出土。4号からは鉄劍・鉄斧・鉢・刀子・鉄鎌が出土している。10号は粘土櫛(木棺)を主体部に持ち、直刀・鉄劍・刀子・勾玉・管玉・竹櫛が出土している。40号については後述する。



Fig.34 西隅横穴位置図 (1/25,000)

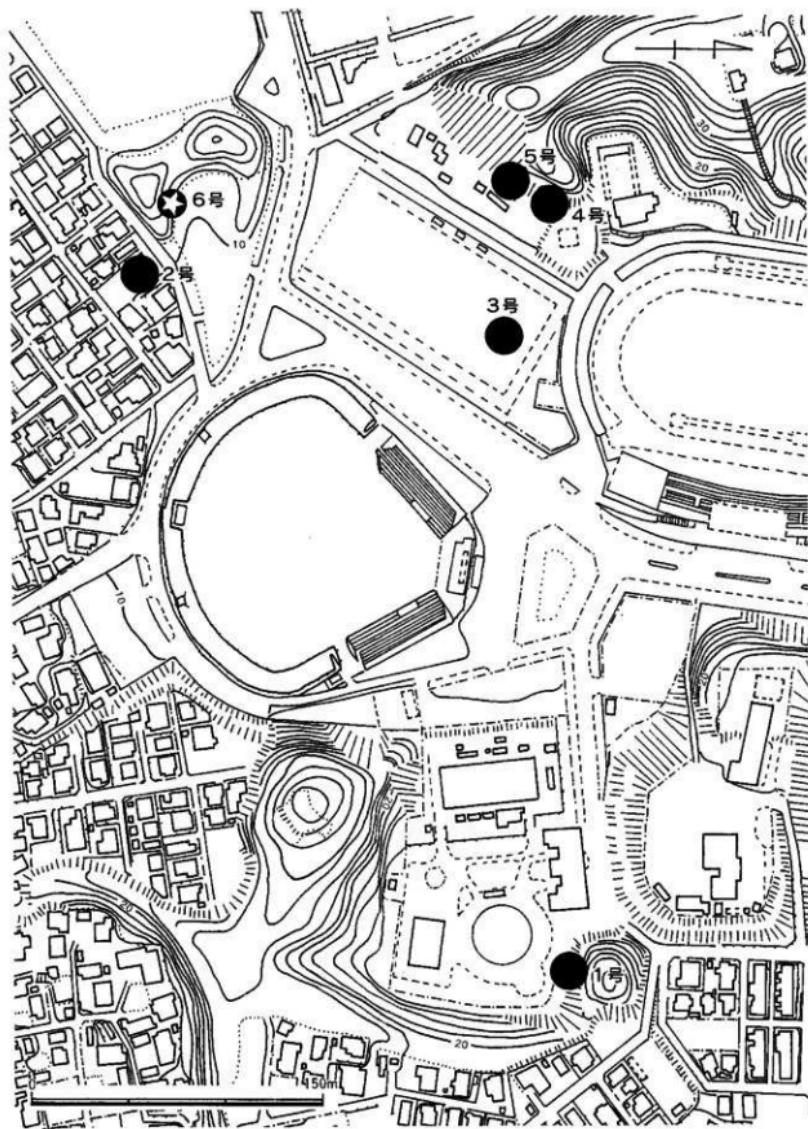


Fig.35 西隕横穴分布図 (1/2,500)

(3)西階周辺の横穴 (Fig.35)

当遺跡周辺では、これまでに7基の横穴が確認されている。その内の5基は、ほぼ同地区内である。前述の天下支群の40号の2基が川を隔てて分布している。

40号は、経塚山と呼ばれる水田内の独立丘陵の南裾で確認された2基の横穴である。昭和4年に鳥居龍藏氏によって調査が行われている。鳥居氏の著書『上代の日向延岡』で『天下経塚の横穴』と報告されているのが、この40号である。横穴は東西に並んでおり、東側は凝灰岩製の閉塞石が2つに割れて検出され、中に遺物が無かつたことから、盜掘を受けていたと判断される。西側も凝灰岩製の閉塞石が検出された。閉塞石の前方や右に土を盛り、扁平な自然石を置き、その下に須恵器の壺形土器が割れて散乱して出土している。狭道は長さ72cm・幅86cm・高さ66cmで、玄室は奥行き141cm・幅164cm・高さ72cmであった。狭道と玄室の高さはほぼ同じ高さで、奥がやや高い程度であった。玄室内より刀5・刀子2・鉄鎌2・金環2・ガラス製小玉34・滑石製紡錘車1・須恵器25・土師器3が出土している。

調査地と同地区からは、これまでに5基の横穴が確認されており、今回の調査結果を機に『西階横穴』と総称し、順に号数を振ることとした。

西階横穴1号は前述の『丸塚山の横穴』の横穴で調査地から北東に約500mの位置である。南方古墳32号の所在する丘陵の南裾より検出されている。凝灰岩製の小判形の石で閉塞がなされており、閉塞石の左右に1個ずつ土師器が置いてあった。狭道は極めて短く約30cm・高さ45cmで、玄室は奥行き160cm・幅206cm・高さ63cmであった。天井は円形に彫り込まれ、玄室は横に広い不正円形をなしていた。玄室の中央に東西に長く14個のやや扁平な自然石が並べられ、その長さは173cm・幅約33cmであった。西壁に接している石は最も大きく、石枕の形状を成していた。出土遺物は直刀2・刀子1・鉄鎌14・管玉12・琉璃玉2である。

西階横穴2号は、調査地の南に隣接する付近から確認されている。場所は確定できないが、「宮崎県史蹟調査 第七輯 東臼杵郡」昭和4年宮崎県刊行に報告されている。調査は宮崎県史蹟調査委員の河井田政吉氏によって行われている。狭道が無く、開口部は幅103cm・高さ45cmで、玄室は奥行き210cm・幅121cm・高さ48cmである。報告では3体が埋葬されていたとある。出土遺物は直刀1・刀子（鹿角製の柄）1・鉄鎌1・金環2・管玉22・琉璃玉192・珊瑚玉1・玻璃小玉1・土製小玉3・貝釧1であった。

西階横穴3号は南方古墳群42号墳として指定を受けていたが、未調査のまま昭和46年10月23日に破壊され消滅している。

この他に昭和39年に開発中に相次いで2つの横穴が確認されている。

西階横穴4号は昭和39年4月27日に確認された横穴で、規模等の記録が無く、刀1・鉄鎌9・頭骨1・須恵器が出土している。

西階横穴5号は昭和39年5月26日に発見されている。一部破壊された状況での調査となり、平らな石で閉塞され、狭道は幅68cm・高さ64cmで長さは破壊のため不明である。玄室の平面プランは漏斗状を呈し、奥行き125cm・幅は200cmで入口部幅は68cmであった。出土遺物は刀1・鉄鎌7・頭骨1・骨片7・歯などが出土している。

今回、調査した横穴は西階横穴6号となる。

(4)調査の概要 (Fig.36)

調査地は、遊園内の標高約18mの2つの頂を持ち、凹形をした小高い丘陵である。遊園の平地から頂までの比高差は約8mを計る。子どもたちの格好の遊び場になっていて、丘陵の至る所が削れて道になっている。その道の一部に穴が開いた事から、今回の発見に至っている。横穴は、この丘陵の南側頂部の北東側の急な斜面に貼りつくように検出された。標高は約13mで、斜面の中腹からの検出である。急な斜面地でもあり、足場の悪い状態での調査となつた。

調査の契機となった陥没孔から、閉塞石の断面が観察でき、土層断面を残し表土剥ぎを行つた。閉塞石は、非常に軟らかい阿蘇溶結凝灰岩製であった。3枚の平たい石で開口部を塞ぎ、その前から1枚の石が検出された。閉塞石裏には薄く朱の痕跡が残っていた。閉塞石を外し、内部の調査を行つたが底部は無く、全体的に小さなつくりであつたため、発掘・実測ともに困難であった。開口部から約40度の角度で傾斜し、床面に到達する。外から流れ込んだ土が多く、空き缶や菓子袋などが混ざり埋まっていた。雨が降ると内部に水や泥が流れ込み、調査中に数回水没をしている。また、横穴が掘られている岩盤(44万十累層群)自体がもろく、調査中に天井の一部が崩落した。

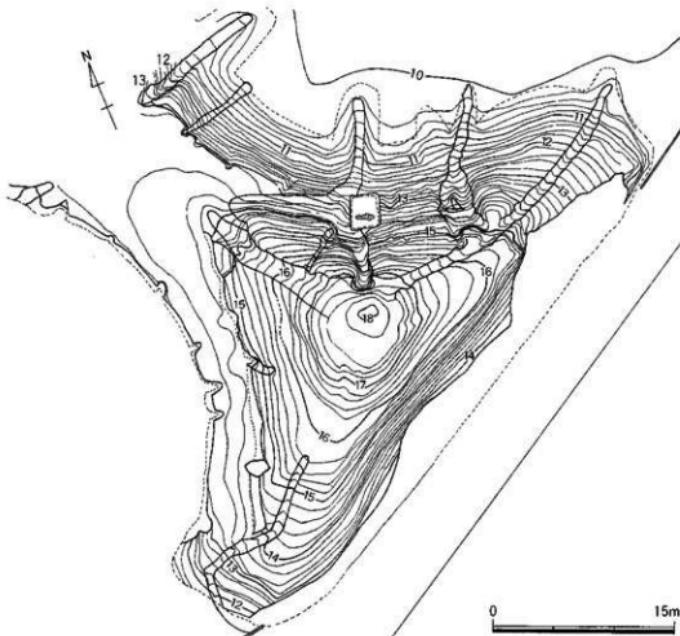


Fig.36 西脇横穴調査区配置図 (1/400)

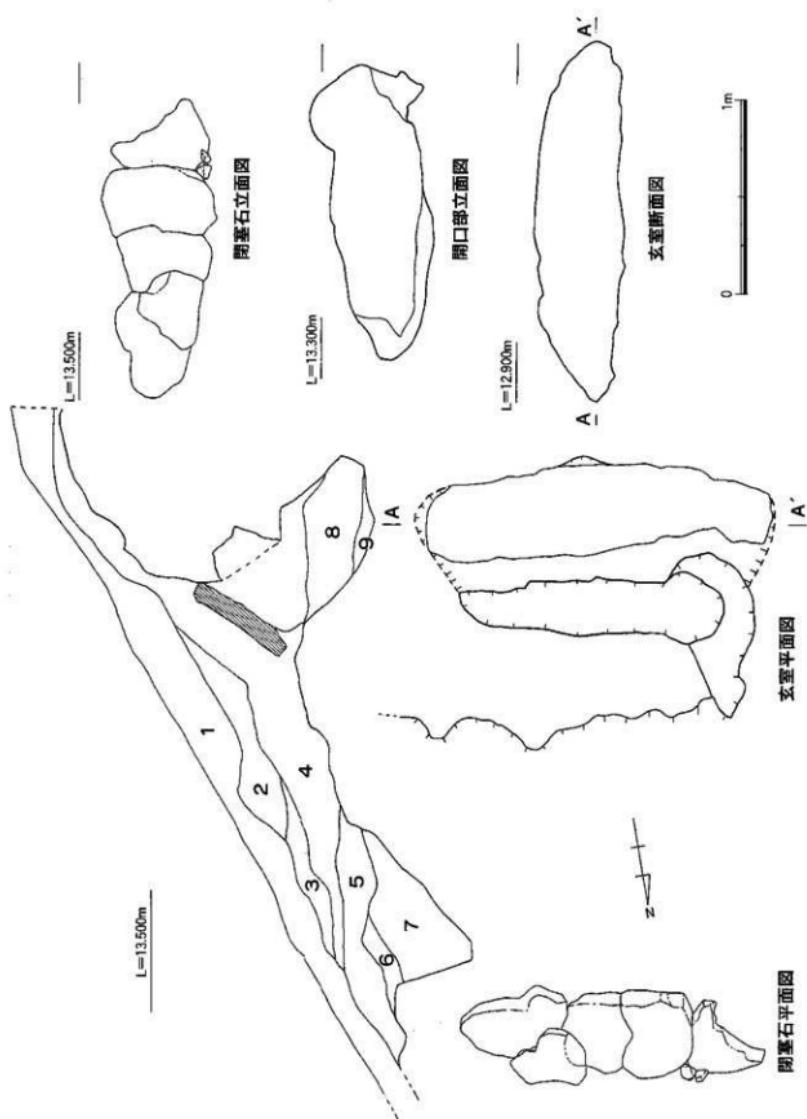


Fig.37 西隣横穴実測図 (1/25)

(5)横穴の構造 (Fig.37)

横穴は極めて簡易なつくりで、前述したように付近の横穴も羨道を持たない構造のものが多い。開口部の前方に約1mのやや平坦な面をつくり、閉塞石を置いている。閉塞石は非常に軟らかい阿蘇溶結凝灰岩質で、3枚で閉塞し、うち中央の1枚は割れていた。1枚は閉塞石の前に置かれていた。閉塞石は約35度の角度で立っていた。

検出時の土層断面は1層 淡褐色土(表土)、2層 淡暗褐色土、3層 暗褐色土(木根の影響を受ける)、4層 黄白色粘質岩土粒、5層 暗褐色土(木根の影響を受ける)、6層 黄白色粘質岩土(岩盤の風化)、7層 黄白色粘質岩土粒(4より粒子が大きい)であった。玄室の埋土は8層 淡灰褐色粘質土(流入土)、9層 黄褐色粘質土であった。9層上面には、薄く暗灰褐色粘質土が覆っていた。

開口部は、ほぼ北に向かい幅152cm・高さ53cmを計り、玄室最大幅は184cm・高さ47.5cmを計る。玄室の平面プランは、東西に長軸を持つ不正形の隅丸長方形である。

(6)出土遺物 (Fig.38・Fig.39)

出土遺物は、刀子1点・勾玉1点・管玉5点・ガラス製小玉172点が出上している。

玉類は全て東側より出土している。刀子は切先を西側に向け、中央よりやや東で奥壁に近い位置で出土している。

1~33はガラス製小玉である。今回出土したガラス製小玉は172点である。大きさは径0.2cm~0.6cmである。色調は大きく分けて青色・水色・紺色・緑色・黄緑色に分類される。34は翡翠製の勾玉である。欠損した状況で出土している。35~37は緑色凝灰岩製の管玉である。風化が激しく、特に37は著しい。38・39は蛇紋岩製の管玉である。深い緑色の色調を帯び、穿孔は一方向から行われている。

40は刀子である。全体的に木質が遺存しているが、鏽は激しい。長さ12.4cm・幅2.4cmである。

(7)まとめ

今回の調査は、西階横穴1号について構造等の詳細な記録を残す調査となった。市内での横穴の調査は今回で11例目となる。

西階横穴の最大の特徴は、羨道部を持たない又は非常に短い簡易な構造である。延岡市北部の桜ヶ丘地区には、宮崎県指定延岡古墳群第11号を含む4基の横穴が確認されている。延岡古墳群第11号は羨道部の長さ120cm・幅68cm・高さ70cm、玄室は奥行き178cm・幅195cm・高さ110cmと報告されており、その構造に明確な違いが存在する。詳細な記録の残る調査例が少なく、その構造の違いを検討するには資料が充分ではない。今後の調査例の増加が待たれる。

本調査地の周辺、特に本調査地の丘陵は未確認の横穴が存在する可能性が非常に高い。今後の開発には充分、留意するとともに、調査例の増加に期待したい。

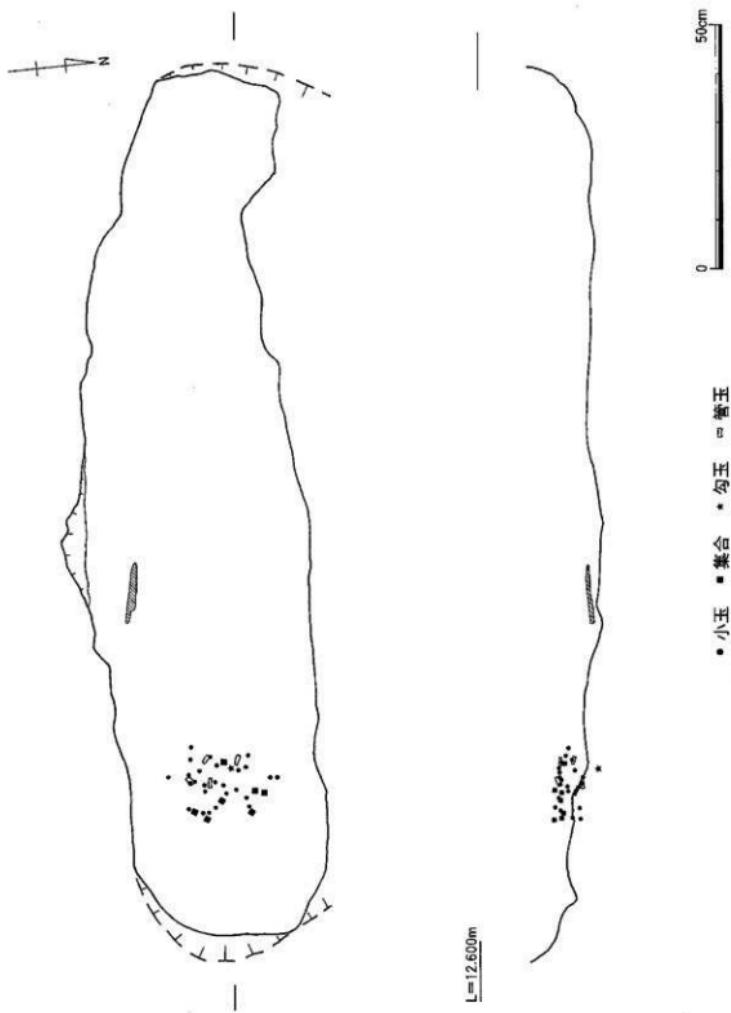


Fig.38 西陝橫穴遺物出土狀況圖 (1/10)

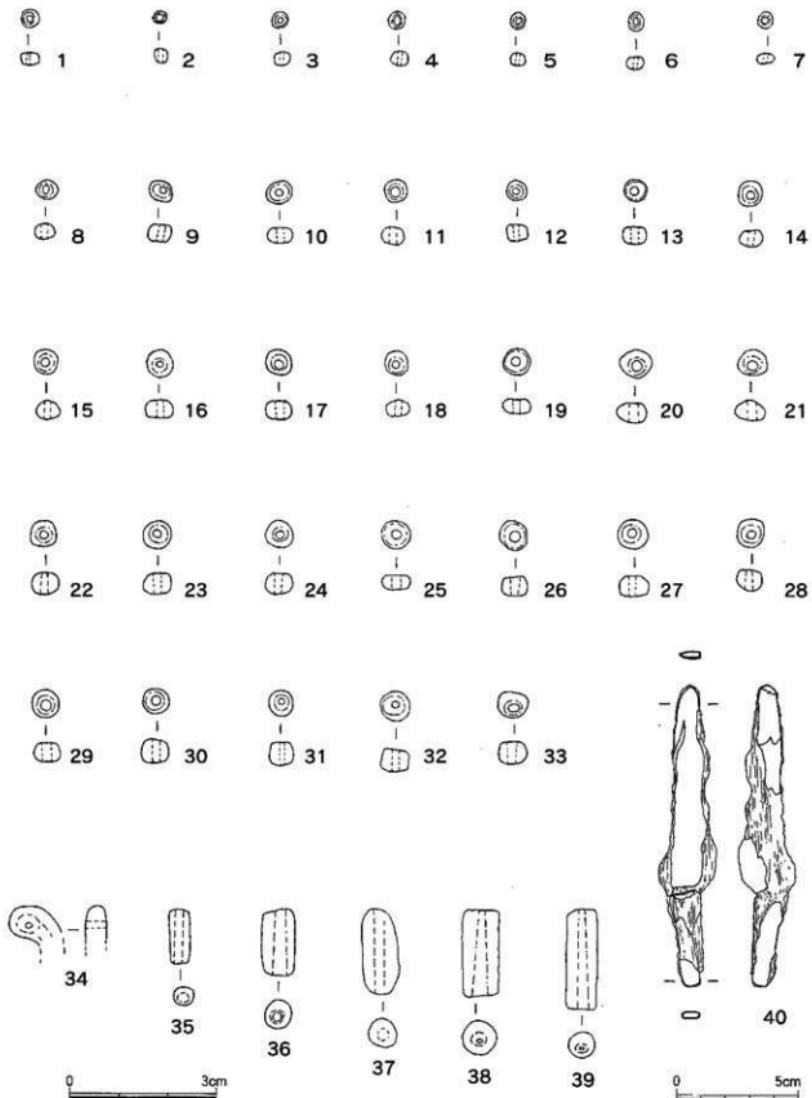


Fig.39 西階横穴出土遺物実測図 (1/1, 40=1/2)

No	器種	材質	最長	孔径	徑	重量	色調	備考
1	小玉	ガラス	0.35	0.1	0.25	0.02	黄緑	Fig.39
2	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.3	0.01以下	青色	Fig.39
3	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.3	0.02	緑色	Fig.39
4	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.3	0.03	水色	Fig.39
5	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.25	0.02	黄緑	Fig.39
6	小玉	ガラス	0.4	0.1	0.25	0.02	緑色	Fig.39
7	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.2	0.01以下	青色	Fig.39
8	小玉	ガラス	0.5	0.2	0.4	0.14	青色	Fig.39
9	小玉	ガラス	0.3	0.15	0.5	0.1	緑色	Fig.39
10	小玉	ガラス	0.5	0.15	0.3	0.08	青色	Fig.39
11	小玉	ガラス	0.45	0.15	0.45		青色	Fig.39
12	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.45	0.08	水色	Fig.39
13	小玉	ガラス	0.3	0.18	0.5	0.1	青色	Fig.39
14	小玉	ガラス	0.5	0.1~0.2	0.35	0.08	青色	Fig.39
15	小玉	ガラス	0.45	0.2	0.4	0.07	青色	Fig.39
16	小玉	ガラス	0.55	0.15	0.35	0.16	青色	Fig.39
17	小玉	ガラス	0.4	0.15	0.5	0.1	青色	Fig.39
18	小玉	ガラス	0.5	0.2	0.4	0.14	青色	Fig.39
19	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.6	0.11	青色	Fig.39
20	小玉	ガラス	0.6	0.2	0.65		青色	Fig.39
21	小玉	ガラス	0.6	0.2	0.6	0.08	青色	Fig.39
22	小玉	ガラス	0.5	0.15	0.5	0.14	青色	Fig.39
23	小玉	ガラス	0.4	0.2	0.55	0.17	青色	Fig.39
24	小玉	ガラス	0.6	0.15	0.45	0.13	青色	Fig.39
25	小玉	ガラス	0.3	0.2	0.65	0.14	青色	Fig.39
26	小玉	ガラス	0.4	0.25	0.6	0.16	青色	Fig.39
27	小玉	ガラス	0.4	0.15	0.6	0.19	青色	Fig.39
28	小玉	ガラス	0.5	0.1	0.45	0.17	青色	Fig.39
29	小玉	ガラス	0.4	0.2	0.55	0.12	青色	Fig.39
30	小玉	ガラス	0.5	0.17	0.51	0.15	青色	Fig.39
31	小玉	ガラス	0.5	0.1	0.5	0.15	青色	Fig.39
32	小玉	ガラス	0.5	0.15	0.5	0.18	青色	Fig.39
33	小玉	ガラス	0.55	0.15~0.2	0.5	0.17	水色	Fig.39
34	勾玉	翡翠		0.1	厚0.4	0.38	水色	Fig.39
35	管玉	緑色凝灰岩	1.1	0.1~0.2	0.41	0.14	緑色	Fig.39
36	管玉	緑色凝灰岩	1.4	0.2~0.3	0.6	0.58	緑色	Fig.39
37	管玉	緑色凝灰岩	1.8	0.15~0.2	0.6	0.36	風化が激しい	Fig.39
38	管玉	蛇紋岩	1.8	0.3~0.1	0.7	1.74	緑色	Fig.39
39	管玉	蛇紋岩	2.3	0.2~0.1	0.6	1.09	緑色	Fig.39
40	小玉	ガラス	0.4	0.2	0.15	0.02	水色	
41	小玉	ガラス	0.25	0.15	0.25	0.01以下	青色	
42	小玉	ガラス	0.35	0.15	0.15	0.01以下	水色	
43	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.1	0.01	青色	
44	小玉	ガラス	0.27	0.1	0.2	0.02	水色	
45	小玉	ガラス	0.45	0.15	0.29	0.08	青色	
46	小玉	ガラス	0.29	0.1	0.15	0.02	青色	
47	小玉	ガラス	0.33	0.3	0.22	0.03	水色	
48	小玉	ガラス	0.31	0.15	0.23	0.03	緑色	
49	小玉	ガラス	0.38	0.13	0.33	0.6	水色	
50	小玉	ガラス	0.22	0.1	0.15	0.01以下	黄緑	
51	小玉	ガラス	0.23	0.1	0.19	0.01以下	黄緑	
52	小玉	ガラス	0.31	0.1	0.19	0.03	青色	
53	小玉	ガラス				0.01以下	青色	半分割れ
54	小玉	ガラス	0.22	0.1	0.12	0.01以下	緑色	
55	小玉	ガラス				0.1	青色	バラ
56	小玉	ガラス	0.33	0.15	0.17	0.02	青色	
57	小玉	ガラス	0.25	0.14	0.11	0.01以下	黄緑	
58	小玉	ガラス				0.02	青色	割れ
59	小玉	ガラス	0.45	0.15	0.26	0.07	青色	

表2 西陶横穴出土玉類觀察表

No	器種	材質	最長	孔径	径	重量	色調	備考
60	小玉	ガラス	0.31	0.12	0.15	0.02	青色	
61	小玉	ガラス	0.28	0.12	0.15	0.01	青色	
62	小玉	ガラス	0.29	0.13	0.15	0.01	緑色	
63	小玉	ガラス	0.32	0.12	0.19	0.02	青色	
64	小玉	ガラス	0.33	0.13	0.13	0.02	青色	
65	小玉	ガラス	0.3	0.2	0.2	0.02	緑色	
66	小玉	ガラス	0.29	0.1	0.18	0.02	青色	
67	小玉	ガラス	0.25	0.1	0.15	0.01以下	青色	
68	小玉	ガラス				0.01以下	青色	半分割
69	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.16	0.02	青色	
70	小玉	ガラス	0.4	0.15	0.12	0.05	青色	
71	小玉	ガラス	0.38	0.14	0.16	0.03	青色	
72	小玉	ガラス	0.37	0.15	0.2	0.04	青色	
73	小玉	ガラス	0.35	0.16	0.18	0.03	水色	
74	小玉	ガラス	0.35	0.15	0.2	0.03	水色	
75	小玉	ガラス	0.34	0.1	0.24	0.03	青色	
76	小玉	ガラス				0.02	水色	バラ
77	小玉	ガラス	0.34	0.13	0.22	0.03	青色	
78	小玉	ガラス	0.35	0.13	0.2	0.03	青色	
79	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.22	0.03	緋色	
80	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.16	0.02	黄緑	
81	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.22	0.02	緑色	
82	小玉	ガラス	0.3	0.12	0.15	0.02	青色	
83	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.18	0.02	黄緑	
84	小玉	ガラス	0.29	0.1	0.24	0.03	緑色	
85	小玉	ガラス	0.3	0.1	0.2	0.02	青色	
86	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.18	0.02	水色	
87	小玉	ガラス	0.26	0.13	0.18	0.02	青色	
88	小玉	ガラス	0.25	0.12	0.15	0.02	緑色	
89	小玉	ガラス	0.25	0.12	0.14	0.02	青色	
90	小玉	ガラス	0.24	0.12	0.13	0.01以下	黄緑	
91	小玉	ガラス	0.23	0.1	0.1	0.01以下	青色	
92	小玉	ガラス	0.23	0.1	0.11	0.01以下	青色	
93	小玉	ガラス	0.21	0.1	0.13	0.01以下	水色	
94	小玉	ガラス	0.22	0.1	0.15	0.01以下	水色	
95	小玉	ガラス				0.02	青色	半分割
96	小玉	ガラス				0.02	青色	バラ
97	小玉	ガラス	0.28	0.15	0.12	0.02	水色	
98	小玉	ガラス	0.26	0.12	0.17	0.02	青色	
99	小玉	ガラス	0.3	0.12	0.18	0.03	青色	
100	小玉	ガラス	0.25	0.12	0.13	0.01以下	黄緑	
101	小玉	ガラス	0.48	0.15	0.32	0.11	青色	
102	小玉	ガラス	0.2	0.1	0.11	0.01以下	水色	
103	小玉	ガラス				0.05	水色	バラ
104	小玉	ガラス				0.02	水色	割れ
105	小玉	ガラス	0.26	0.13	0.18	0.02	青色	
106	小玉	ガラス	0.26	0.14	0.1	0.01以下	青色	
107	小玉	ガラス				0.03	青色	バラ
108	小玉	ガラス	0.22	0.1	0.15	0.01以下	黄緑	
109	小玉	ガラス	0.54	0.2	0.25	0.11	青色	
110	小玉	ガラス	0.53	0.17	0.3	0.13	青色	
111	小玉	ガラス	0.48	0.15	0.3	0.11	水色	
112	小玉	ガラス	0.51	0.2	0.3	0.1	青色	
113	小玉	ガラス	0.46	0.15	0.38	0.13	水色	
114	小玉	ガラス	0.24	0.1	0.13	0.01	青色	
115	小玉	ガラス	0.52	0.12	0.33	0.12	青色	
116	小玉	ガラス				0.07	青色	バラ
117	小玉	ガラス	0.5	0.15	0.34	0.13	青色	
118	小玉	ガラス	0.48	0.15	0.28	0.09	青色	

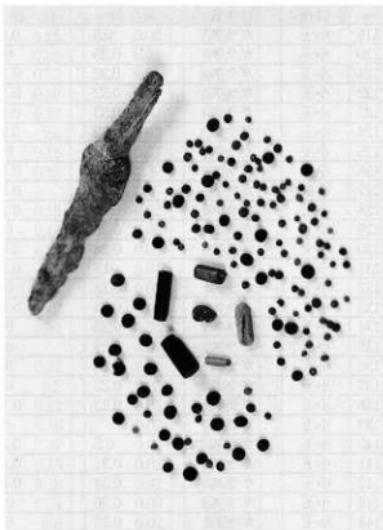
表3 西階横穴出土玉類観察表

No	器種	材質	最長	孔 径	径	量	色調	備考
119	小玉	ガラス	0.3	0.13	0.18	0.2	水色	
120	小玉	ガラス	0.25	0.1	0.16	0.01以下	黄緑	
121	小玉	ガラス	0.32	0.13	0.24	0.04	青色	
122	小玉	ガラス	0.32	0.12	0.18	0.02	緑色	
123	小玉	ガラス	0.33	0.15	0.12	0.02	青色	
124	小玉	ガラス	0.32	0.12	0.2	0.03	青色	
125	小玉	ガラス	0.32	0.1	0.21	0.02	青色	
126	小玉	ガラス	0.28	0.12	0.25	0.02	青色	
127	小玉	ガラス	0.3	0.15	0.12	0.01	青色	バラ
128	小玉	ガラス	0.31	0.12	0.2	0.03	水色	
129	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.18	0.02	青色	
130	小玉	ガラス	0.28	0.12	0.12	0.01以下	水色	
131	小玉	ガラス	0.3	0.11	0.21	0.02	黄緑	
132	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.21	0.02	水色	
133	小玉	ガラス	0.24	0.12	0.11	0.01以下	水色	
134	小玉	ガラス	0.23	0.1	0.17	0.01以下	黄緑	
135	小玉	ガラス	0.24	0.1	0.18	0.01以下	青色	
136	小玉	ガラス	0.26	0.1	0.19	0.01	青色	
137	小玉	ガラス	0.23	0.1	0.12	0.01以下	青色	
138	小玉	ガラス	0.23	0.12	0.1	0.01以下	青色	
139	小玉	ガラス				0.16	青色	
140	小玉	ガラス	0.5	0.15	0.25	0.08	青色	
141	小玉	ガラス	0.31	0.12	0.24	0.03	青色	
142	小玉	ガラス	0.31	0.12	0.21	0.02	青色	
143	小玉	ガラス	0.26	0.1	0.19	0.02	青色	
144	小玉	ガラス	0.22	0.1	0.13	0.01以下	青色	
145	小玉	ガラス	0.45	0.15	0.3	0.08	青色	
146	小玉	ガラス	0.32	0.13	0.16	0.02	水色	
147	小玉	ガラス	0.29	0.15	0.2	0.03	青色	割れ
148	小玉	ガラス	0.27	0.1	0.17	0.02	青色	
149	小玉	ガラス	0.3	0.12	0.16	0.01	水色	
150	小玉	ガラス	0.23	0.1	0.22	0.02	青色	
151	小玉	ガラス	0.28	0.12	0.14	0.01	青色	
152	小玉	ガラス	0.28	0.14	0.12	0.01以下	水色	
153	小玉	ガラス	0.28	0.1	0.18	0.02	黄緑	
154	小玉	ガラス	0.26	0.12	0.13	0.01以下	緑色	
155	小玉	ガラス	0.25	0.12	0.17	0.01以下	水色	
156	小玉	ガラス	0.25	0.1	0.16	0.01以下	青色	
157	小玉	ガラス	0.25	0.12	0.12	0.01以下	緑色	
158	小玉	ガラス	0.25	0.1	0.12	0.01以下	青色	
159	小玉	ガラス	0.24	0.11	0.15	0.01以下	青色	
160	小玉	ガラス	0.29	0.12	0.18	0.02	水色	バラ
161	小玉	ガラス	0.38	0.15	0.32	0.06	水色	
162	小玉	ガラス	0.39	0.19	0.2	0.05	水色	
163	小玉	ガラス	0.35	0.1	0.28	0.04	水色	
164	小玉	ガラス	0.27	0.1	0.17	0.01	青色	
165	小玉	ガラス	0.25	0.14	0.11	0.01以下	水色	
166	小玉	ガラス				0.01以下	青色	割れ
167	小玉	ガラス	0.29	0.12	0.19	0.02	水色	
168	小玉	ガラス	0.28	0.12	0.13	0.01	青色	
169	小玉	ガラス	0.28	0.14	0.12	0.01以下	水色	
170	小玉	ガラス	0.25	0.1	.15	0.01	青色	
171	小玉	ガラス				0.01	青色	バラ
172	小玉	ガラス	0.45	0.15	0.28	0.07	青色	
173	小玉	ガラス	0.41	0.12	0.3	0.08	青色	
174	小玉	ガラス				0.08	青色	バラ
175	小玉	ガラス				0.01以下	青色	割れ
176	小玉	ガラス				0.01以下	水色	割れ
178	小玉	ガラス				0.02	水色	バラ

表4 西階横穴出土玉類観察表



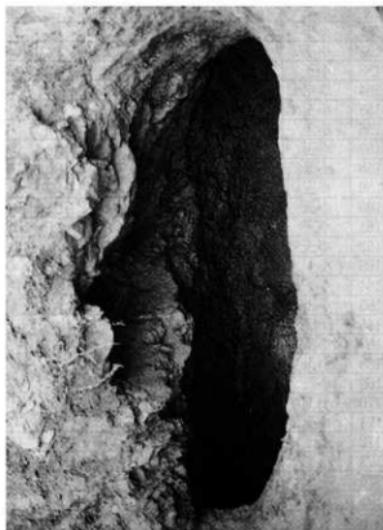
PL.13 西階横穴閉塞狀況



PL.15 西階横穴出土遺物



PL.12 西階横穴調査前



PL.14 西階横穴開口狀況

報告書抄録

ふりがな	のべおかじょうない かみわたり	なかはた おおおたけ	あかぎ かみたら	のべおかじょうない のべおかじょうない	もじした にしなこあを
書名	延岡城内遺跡(第10次) 仲原遺跡 赤木遺跡(第10次) 延岡城内遺跡(第11次) 木下道跡(第2次)				
副吉名	平成16年度市内道路発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
番号	次				
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書				
シリーズ番号	第30集				
著者名	尾方農一・高瀬哲				
編集機関	延岡市教育委員会				
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1				
発行年月日	2005年3月31日				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城内遺跡 (第10次)	天神小路	452033	3018	32° 34' 40"	131° 39' 39"	2004/0202 2004/0224	200.0m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
城跡	中近世	無	陶磁器					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
仲畑遺跡	下三輪町字仲畑	452033	4098	32° 33' 25"	131° 36' 38"	2004/0407 2004/0414	19.0m ²	携帯電話 基地局
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
散布地	古墳~古代	無	無					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
赤木遺跡 (第10次)	舞野町字赤木	452033	4035	32° 34' 13"	131° 36' 08"	2004/0406 2004/0419	44.7m ²	個人専用住宅
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
散布地	旧石器~古墳	無	旧石器					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城内遺跡 (第11次)	木下路	452033	3018	32° 34' 46"	131° 39' 41"	2004/0420 2004/0507	64.0m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
城跡	中近世	近代建築跡	陶磁器					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
木下道跡 (第2次)	野地町字木下	452033	4073	32° 34' 37"	131° 38' 46"	2004/0510 2004/0521	18.5m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
散布地	古墳~古墳	無	無					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上無田遺跡 (第4次)	野庭町字上無田	452033	4082	32° 34' 12"	131° 38' 44"	2004/0726 2004/0730	7.0m ²	クリニック マンション
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
散布地	縄文~古墳	無	無					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大武道跡 (第2次)	大武町字大武	452033	2026	32° 35' 46"	131° 41' 27"	2004/0810 2004/0816	45.0m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
散布地	中近世	無	無					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上多々良遺跡 (第2次)	古川町字上多々良	452033		32° 35' 02"	131° 39' 20"	2004/1112 2004/1227	82.0m ²	区画整理
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
散布地	古墳~中古	無	土器・須恵器					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
延岡城内遺跡 (第12次)	本小路	452033	3018	32° 34' 45"	131° 39' 51"	2004/1215 2004/1227	34.0m ²	新庁舎建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
城跡	中近世	井戸跡	陶磁器					
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
西階横穴	西階町字西階	452033	4075	32° 33' 52"	131° 38' 31"	2004/0422 2004/0624	7.0m ²	不時発見
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物					特記事項
横穴	古墳	横穴	刀子・勾玉・管玉・小玉					

**平成16年度市内遺跡発掘調査に伴う
埋蔵文化財調査報告書**

延岡市文化財調査報告書第30集

2005年3月31日

発行 延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷 株黒木屋印刷所
宮崎県延岡市北町2-2-5